

大政紀要

第九十一卷

一 函	架	九 六 冊	一 口 類
--------	---	-------------	-------------

編下要紀政大	
交	外
卷	第
一	一
開	校
	草起
	萩原裕

国立公文書館

分類

2 A  
33-5  
① 81

大政紀要下編外交目錄

外交一

修好

外交二

開港

外交三

任使

學藝

外交四

債債

賠償

大政紀要

外交五

法禁

免暴

大政紀要下編

外交

瀛海ノ間。萬國對峙ス。賦質殊ナリト雖モ  
 秉彜ハ則チ一ナリ。風習異ナルアルモ族  
 類ハ別ナルニ非ス。修好結懽ハ原ト人情  
 ノ常。有無相濟フハ乃チ天性ノ理ナリ。况  
 ヤ短長相通シ智愚相益スハ。相觀テ善ク  
 スル所以ニレテ。己ヲ含テ人ニ從ヒ善人  
 ト同クスルハ。是レ公道ノ大ナリトスル

大政紀要



者ナリ。外交ノ道タル重且大ナリト謂ハ  
 サル可ンヤ。恭ク惟ミルニ。徳川慶喜大政  
 奉還ノ表ニ曰ク。當今外國ノ交際日ニ盛  
 ナルニ因リ。朝權一途ニ出サレハ綱紀立  
 カタシ。爰ニ政權ヲ奉還シ。廣ク公議ヲ盡  
 レ。謹テ聖斷ヲ仰キ。同心協力共ニ皇國ヲ  
 保護シ。海外萬國ト並立スヘシト。朝首善  
 ク之ヲ納レ。拙レテ外國事件ハ衆議ヲ竭  
 スヘシトセリ。嗚呼。大ナル哉。王言至レル  
 哉。臣謹。臣能ク之ヲ獻シ。君能ク之ヲ納ル

外交一  
 修好  
 徳川氏ノ政ヲ執ルヤ。締約ノ國凡テ十一  
 國ト爲ス。朱利堅ト曰ヒ。魯西亞ト曰ヒ。英  
 吉利ト曰ヒ。法朗西ト曰ヒ。荷蘭ト曰ヒ。白  
 大猷啓沃。今古一時。於戲盛ナリ。然ラハ則  
 テ大政ノ復古ハ外交ノ一事ヨリ起ルト  
 謂フモ亦可ナリ。爰ニ門類ヲ分テ。修好ト  
 曰ヒ。開港ト曰ヒ。任使學藝ト曰ヒ。貨債賠  
 償ト曰ヒ。法禁免暴ト曰フ。凡テ五門トス



耳義ト曰ヒ。葡萄牙ト曰ヒ。李漏生ト曰ヒ。瑞西ト曰ヒ。伊太里ト曰ヒ。丁抹ト曰フ。清國ノ如キハ。慶長以還久レク通商スト雖モ。仍ホ埠頭國ト為レ通好締約ニ及ハス。朝鮮ハ則チ特夕使聘ヲ通スルノミ其通商ハ宗氏一家ノ私事ナリ。後古以降。澳地利。瑞典。西班牙。白露布哇モ亦締約ス。清朝鮮ヲ併テ十八國ト為レ。字内ノ列國。遠通トナシ咸チ通セサルハナレ。盛ナル哉。

國是ヲ定メ外  
國交際ハ公法

明治元年正月朝議首トシテ國是ヲ定メ。外國交

ニ遵フ

大政復古ヲ列  
國公使ニ告ク

列國公使皆外  
中立ヲ布令ス

際ハ字内ノ公法ニ遵テ施行スルコトヲ海内ニ頒告シ。參與外國事務掛東久世通禧ニ命シテ各國公使ニ會シ。國書ヲ授ケ。大政復古ヲ告ケシム。其會スル者ヲ法朗西全權公使列翁魯西。英吉利特派全權公使兼總領事巴克斯。伊太里特派全權公使讀爾。李漏生代理公使方不蘭荷蘭代理公使兼總領事勃爾斯伯米利堅。辦理公使發賢勃克ト為ス。時ニ徳川氏罪ヲ朝廷ニ得タリ。通禧書ヲ各國公使ニ移シ。兵器軍艦ヲ其君臣ニ賣貸スルコトヲ禁止ス。公使モ亦内

變アルヲ聞キ。局外中立ヲ其國人ニ告示ス。二月。議定島津忠義細川護久等六藩侯ノ建議ヲ納レ。各國公使ヲ召見セントシ。大阪裁判所總督醍醐忠順。副總督伊達宗城ヲシテ通禧ト俱ニ各國公使ニ本願寺ニ會シ。朝首ヲ傳ヘ外國事務局ヲ置クコトヲ告ケシメ。而シテ公使ヲ京師ニ召レ。諸藩ニ命シテ畿ニ其沼道ヲ警戒セシム。是月晦。法朗西荷蘭兩國公使入朝ス。上之ヲ紫宸殿ニ見ル。勅シテ交誼ヲ厚クシ。永遠ニ繼カンコトヲ諭ス。英吉利公使モ亦將ニ朝

法蘭英三國公使入朝ス

亮徒英國公使ノ衛騎ヲ衛ク

ントス。亮徒之ヲ途ニ要シ。其衛騎ヲ衝ク。傷者二人アリ。公使遂ニ朝スルヲ果サス。晃親王、伊達宗城、東久世通禧等ヲ客館ニ遣テ慰問セシム。三月三日。英吉利公使入朝ス。勅諭前ノ如ク。特旨アリ不虞ノ變ニ遇フヲ慰ス。法朗西荷蘭兩公使モ亦禁内ニ參同シ。總裁三條實美、岩倉具視等十二人ニ接見ス。是日。沿途坊門ヲ鎖シ行人ヲ遏ム。明日三公使大阪ニ還ル。大小諸藩ニ命シテ其沼道ヲ護ラシム。四月。各國官吏書東ノ文式ヲ定ム。公使ハ閣下。領事及ヒ公使館

各國官吏書東ノ文式ヲ定ム

英國公使始テ  
國書ヲ上ル

邦政綱要

書記官ハ貴下ト書シ。總領事モ亦貴下ト稱セ  
 リ。是月。車駕大阪ニ臨幸ス。閏四月朔。巴克斯復  
 タ行在所ニ入見シ。國書ヲ上リ。特派公使タル  
 ヲ奏ス。水師副提督計布爾等六人モ亦随テ入  
 見ス。是ヨリ先。巴克斯我カ國情ヲ本國ニ電報  
 ス。四月。其國書先達ス。乃チ徳川氏ノ舊儀ニ依  
 リ。入朝捧獻セント請フ。故ニ之ニ及フ。復古以  
 降。外國公使ノ國書ヲ上ルハ此ニ昉ル。是月三  
 日。英吉利帝降誕節。神奈川砲臺禮砲ノ式アリ。  
 列國兵艦一齊皆之ニ應ス。亦徳川氏ノ舊儀ニ

宗義達ニ命シ  
テ朝鮮ノ交際

從フナリ。是ヨリ先。通禧各國公使ニ移書シ。徳  
 川氏ノ伏罪ヲ告ケ。局外中立ヲ解カシムトヲ  
 求ム。五月。公使等其證左ヲ得テ之ヲ商議セン  
 コトヲ報ス。通禧其證ヲ示ス。然トモ東北尚ホ  
 騷然。而シテ奥羽諸藩ノ聯合ヲ告クルヲ以テ。  
 公使猶ホ解キ可セス。初メ朝鮮ノ法朗西ト釁  
 ヲ啓クヤ。徳川氏隣交ヲ思ヒ。使ヲ遣リテ媾和  
 ヲ圖ラントシ。之ヲ奏請ス。其請ヲ得テ宗義達  
 ヲシテ幹當セシメシニ。復古ノ運ニ際シテ事  
 竟ニ寢ム。幾モナク義達ニ命シ。舊ニ仍テ其交

大政綱要



ヲ掌リ王政復  
古ヲ昔ケシム

大政綱要

編纂

際ヲ掌リ。王政復古ヲ其國ニ告ケシム。義達上  
 言シテ。交際宿例ヲ裁革シ。朝鮮ヲシテ他國ト  
 均一ナラシメント請フ。然トモ國內多故ナル  
 ヲ以テ。未タ之ニ及フニ違アラズ。朝鮮モ亦答  
 ヘス。是月。宗義達ニ命シテ其交際事宜ハ一ニ  
 之ヲ外國官ニ稟シ。官裁ヲ取ラシム。六月。西班  
 牙特派全權公使契威德ケウヰイ橫濱ニ至ル。西班牙人  
 ノ來ル既ニ尚シ。島原亂後蹤ヲ近海ニ絶ツ。是  
 ニ至テ復タ舊誼ヲ修メ條約ヲ締ハント請フ。  
 八月。神奈川府知事東久世通禧等ヲシテ西班

西班牙瑞典諾  
威ト條約ヲ交  
換ス

三條實美天長  
節ヲ橫濱ニ祝  
ス

牙。瑞典。那威締約ノ事宜ヲ管セシメ。九月。遂ニ  
 西班牙。瑞典。那威ト條約ヲ交換ス。蓋シ瑞典ハ  
 荷蘭公使之ヲ兼攝セリ。徳川氏ノ時ニ方テ西  
 班牙船時トシテ橫濱ニ來ルモノアリ。然トモ  
 未タ締約ニ及ハス。法朗西公使為ニ其國船ト  
 一視センコトヲ請フ。是ニ違テ未タ官吏ヲ置  
 クニ及ハス。法朗西公使亦為ニ其事ヲ攝ス。九  
 月。天長節。鎮將三條實美橫濱ニ抵リ。英國公使  
 ニ其公館ニ會ス。東久世通禧。長岡護美。寺島宗  
 則等之ニ從フ。饗宴アリ。英國陸兵一大隊ヲ以

大政綱要

伊法葡三國公使始テ圖書ヲ上ル

テ調兵祝砲ノ儀ヲ行ヒ。軍樂ヲ奏ス。聖節ヲ祝スルナリ。是日。數百ノ球燈ヲ裁判所ニ張り。大ニ各國領事ヲ集醜ス。十月。車駕東京ニ臨ム。十一月。伊太里。法朗西。荷蘭三公使入見シ。各々國書ヲ上ル。英吉利。米利堅。李福生公使モ亦朝見ス。並ニ東幸ヲ賀ス。○按スルニ。英吉利伊太里ハ。蓋レ舊記ノ曩ニ公使ノ入見スルヤ。判事伊藤逸ナラシム。藤博又譯詞ヲ通ス。是ニ至テ之ヲ一等譯官ニ命セリ。是日モ亦沼道行人ヲ遇ム。時ニ國內略々平定ス。公使ニ諭シ局外中立ヲ解カシム。猶

列國公使局外中立ヲ解ク

ホ宵ハス。十二月。輔相岩倉具視躬ヲ橫濱ニ赴キ。各國公使ニ面諭シ。又書ヲ致シテ反覆辨論セリ。遂ニ二十八日ヲ以テ其令ヲ解ク。初メ徳川氏米利堅ニ托シテ裝鐵艦ヲ造ル。艦成リ橫濱ニ至ル。適々中立ニ際シ。艦將其國旗ヲ標シ交付スルヲ宵セス。明年二月ニ至テ始テ之ヲ我ニ致セリ。是時ニ方テ。白耳義。葡萄牙。瑞西。丁林四國。締約以來未タ公使ヲ我ニ置カス。外國官之ヲ判事寺島宗則等ニ令シテ四國ニ諭サシム。葡萄牙ハ則チ瑪港鎮臺ヨリ我カ公使ヲ

敷ネシム

二年二月。荷蘭代理公使勃爾斯伯其國ニ告歸ス。總領事芳得達克ヲシテ其後事ヲ代理セシム。

三月外國軍艦ニ四國中國沿海ノ測量ヲ許ス。測海ノ術タル海路ノ危嶮ヲ諸人命ヲ保護スル所以ニシテ。航海者ノ闕ク可カラサルモノナリト雖モ。徳川氏ノ時。世人咸ナ外人ヲ猜疑シ。毎ニ以テ禍心アリト爲シ。有司モ亦物議ヲ憚リ。輒ク之ヲ許シ可トス。偶許スコトアルハ物議全興ス。故ヲ以テ徳川氏ノ時ヲ終フル

外國軍艦ニ内國沿海ノ測量ヲ聽ス

マテ。外人遂ニ肆ニ其術ヲ施スヲ得ス。是ニ至テ外國官或ハ開港府縣ヨリ信票ヲ與ヘ。譯官ヲ附シ。關之物ヲ辨給セシム。五月勅諭シテ曰ク。凡ソ宇内ニ國スル者ハ。親疏ノ別アリト雖モ。相往來セサルノ理ナシ。宜ク盟約ヲ鞏クシ信義ヲ守リ。獨立ノ體裁ヲ立テ。交際ノ標準ト爲スヘシト。是ニ於テカ士民咸ナ朝意ノ嚮フ所ヲ知レリ。時ニ英國皇子來賓ノ報アリ。乃チ領客使ヲ置キ。外務卿伊達宗城及ヒ大原重實ヲ領客使ト爲シ。外務權少丞官本小一ヲ掌客



英國皇子未賓

澳地利ト條約  
ヲ交換ス

九州正統記

ト為シ。接伴ヲ命ス。七月皇子以丁堡侯至ル延  
 遼館ニ館ス。外國貴紳ノ未賓ハ此ヲ始トナス  
 朝見ノ儀アリ。公使巴克斯水師提督加伯等十  
 餘人之ニ扈ス。留ルコト十日。東京ヲ辭ス。領客  
 使之ヲ横濱ニ送ル。款待優渥。經費極テ衆シ。澳  
 地利モ亦將ニ使節ヲ致サントス。英國公使以  
 聞ス。八月特派全權公使安敦至ル。九月入朝シ  
 國書ヲ捧ケ。結好ノ意ヲ奏ス。勅諭奏對儀前式  
 ノ如シ。是ヨリ先。外務卿澤宣嘉。大輔寺島宗則  
 ...ヲシテ締約事宜ヲ管セシム。是ニ至テ澳地利

ト假ニ條約ヲ交換ス。天長節。各國公使ヲ延遼  
 館ニ享醜ス。爾後恒例トナス。是月。米利堅代理  
 公使底倫克至リ。辦理公使發賢勃克ニ代ル。十  
 月。西公使入見シ。國書ヲ上リ交替ヲ奏ス

三年正月。西班牙公使伊莫斯至ル。二月入朝。牒書  
 ヲ致ス。勅諭奏對儀。澳國ニ同シ。三月。外務卿澤  
 宣嘉。大輔寺島宗則。伊莫斯ニ外務者ニ會シ。水  
 條約ヲ交換ス。是月。伊太里特派全權公使讀爾  
 荷蘭辦理公使芳得福豐入見。並ニ國書ヲ上ル。  
 讀爾ハ轉任シ。芳得福豐ハ勃爾斯伯ニ代テ公

列國贈答ノ書式ヲ定ム

使タルヲ奏ス。並ニ璽書之ニ復ス。英吉利水師提督保倫西比モ亦公使巴克斯ト俱ニ謁見ス。是ヨリ先。英國兵艦六七隻ヲ發シ。大池ノ周遊ヲ試ム。保倫西比ハ其一艦將ナリ。海程既ニ二萬里ヲ涉ルト云フ。公使巴克斯上言シテ曰ク。日本ハ環海ノ島國。航海ノ伎尤モ研精スヘキナリ。今ヤ此艦ノ至ルハ好機會ナリ。宜ク其人ヲ揀テ就學セシムヘシト。是ニ於テ海軍生員二人ヲ托載セシム。勅諭之ニ及フ。六月。海外列國ノ公法ヲ參酌シテ列國贈答ノ書式ヲ定ム。

柳原前光ヲ清國ニ遣リ。通好訂約ヲ約ス

初メ百事草創。未タ一定ノ法規アラズ。是ニ至テ璽書勅諭ハ大小ヲ問ハス。親蹠ヲ分タス。一ニ對敵ノ語ヲ用ヒ。皇帝ノ稱ニ從フ。但共和國ハ大統領ト稱ス。而シテ文體ハ國文ニ漢字ヲ雜ユルヲ式トナセリ。是時ニ方テ。海外諸國皆交誼ヲ通スルニ獨リ清國未タ使聘ヲ通シ條約ヲ結ハス。朝議其萬國ノ通誼ニ乖クヲ以テ。嚮ニ待詔院出仕木戸孝允ニ内諭シ。將ニ之ヲ清國ニ遣ラントス。中コ口寢ム。是月。外務權大臣柳原前光ヲ遣リ。權少丞花房義質ヲ之ニ副

大政要略

シ。外務卿ノ牒書ヲ總理衙門ニ致シ。情好ヲ通  
 シ條約ヲ訂セントス。清國之ヲ納ル閏十月ニ  
 及テ前光等清國ヨリ復命ス。七月。字法交戦ノ  
 開東洋ニ連ス。乃テ局外中立ノ令ヲ布キ。艦則  
 ヲ定メ。諸艦ヲ各港ニ分派シ。警備ヲ設ケ。兩國  
 兵艦入港ノ者ヲ措置ス。八月。丁赫使節弗勒勤得  
 カヲ遣リ至ル。入見國書ヲ上ル。丁赫公使ノ至  
 ルハ。此ヲ始トナス。九月。米利堅前執政瑞瓦的  
 モ亦至ル。凡ソ列國才幹切名ノ士至ル者アレ  
 ハ。君主必ス引見款待シ。環海ノ形勢ヲ諮問ス

普法開戦局外  
中立ノ令ヲ布  
ク

丁赫使節弗  
至ル

白耳義公使始  
テ至ル

ルヲ其俗ト爲ス。故ヲ以テ上之ヲ禁苑ノ離宮  
 ニ延見ス。其禮殊ニ優重ナリ。字漏生公使モ亦  
 内謁シ。其國ノ戰圖ヲ獻ス。上適々不豫ナリ。嘉  
 彰親王ヲシテ代テ其禮ヲ受ケシム。十月。伊太  
 里特派全權公使澳斯亞至ル。入見國書ヲ上  
 リ。讀爾ニ代テ公使タルヲ奏ス。是ヨリ先。白耳  
 義未タ公使ヲ置カス。閏月。特派全權公使羅典  
 倍基ヲ遣リ至ル。朝見國書ヲ上ル。國書アル者  
 ハ例。國書ヲ以テ之ニ復ス。時ニ勅諭アリテ。國  
 書ナシ。公使以聞ス。明年。國書ヲ公使ニ付シテ

大政要略



始テ辨務使ノ  
海外ニ遣ル

大分  
正統  
要略

其國ニ送ル。是月。始テ辨務使ヲ外務省ニ置キ。  
 分テ大中少ト為ス。外務大丞數島尚信及ヒ森  
 有禮ヲ少辨務使ト為シ。尚信ヲ英吉利法朗西  
 字滿生ニ。森有禮ヲ米利堅ニ遣ル。此ヲ公使海  
 外派遣ノ始ト為ス。十二月。魯西亞裝鐵船様式  
 及ヒ圖書若干ヲ獻ス。初メ徳川氏箱館奉行小  
 出實ヲ彼得堡ニ遣ルヤ贈遺アリ。幾モナク魯  
 西亞其酬物ヲ致ス。船漂フテ達セス。故ニ此獻  
 アリ。是ヨリ先。局外中立ノ令ヲ布キ。陸兵ヲ出  
 シテ神奈川港ヲ警戒スト。雖トモ。字法兩國ノ

英國公使巴克  
斯告歸

字滿生帝獨逸  
皇帝ノ位ニ即  
ク

兵民港口ニ在ル者相協和スルヲ以テ。是月。令  
 シテ獨リ海兵ヲ留メ陸兵ヲ撤ス  
 四年三月。英吉利公使巴克斯將ニ告歸セントシ  
 入朝辭見ス。巴克斯ハ慶應二年初テ本邦ニ至  
 リ。復古ノ際。カヲ内外ニ竭シ。大ニ我ニ功勞ア  
 リ。是ニ至テ優旨慰勞シ。全装刀等ノ土儀ヲ賚  
 フ。阿但士ヲ留テ代理公使ト為シ。後事ヲ理セ  
 シム。是ヨリ先。字滿生帝既ニ法朗西ニ克チ。去  
 歲十一月獨逸皇帝ノ位ニ即ク。是月公使入見。  
 圖書ヲ捧ケ。其聯邦ノ推戴ニ因テ尊號ヲ受ク

大分  
政統  
要略

大正紀要

參議副島種臣  
ヲ布斯達ニ遣  
ル行クヲ果サ  
ス

ルヲ報ス。是ヨリ字漏生ヲ稱シテ專ラ獨逸ト  
為ス。國內諸港警備ノ軍艦ヲ撤ス。四月。朱利堅  
辦理公使底倫克入見シ。圖書ヲ上リ。特派全權  
公使タルヲ奏ス。初メ徳川氏ノ時。布哇好ヲ我  
ニ結ハシメトシテ。徳川氏既ニ聽許スト雖  
トモ。使人商籍ニ在リ。物議アリテ果サス。是ニ  
至テ底倫克其事ニ幹當シ。條約ヲ締ハント請  
フ。之ヲ聽ス。是月。底倫克復タ入見シ。布哇圖書  
ヲ上ル。敕諭前儀ノ如シ。五月。參議副島種臣ヲ  
魯西亞布斯達灣ニ遣リ。北疆交界ヲ議セシム。

外務少亞田邊太一等之ニ随フ。初メ徳川氏ノ  
時ヨリ北地ニ定界ナク。嘉永中。使節布帖廷ノ  
始メテ其議ヲ開キシヨリ。爾後久クシテ決セ  
ス。慶應ノ末。函館奉行小出實ヲ彼得堡ニ遣テ  
之ヲ論決セシム。尚ホ決スルヲ得ス。終ニ雜居  
ノ約ヲ結ヒテ還ル。時ニ外民絡繹北地ニ轉徙  
シ。道路ヲ修メ。屋宇ヲ造リ。開墾採礦ヲ事トシ。  
而シテ兵營ヲ母子泊ニ置テ之ヲ護スレトモ。  
我之ヲ争フヲ得ス。蠶食侵淫日ニ甚ク。土民モ  
亦其居ニ聊セス。他日邊釁ヲ啓クモ亦測ル可

大正紀要

丁未二月ノ海  
底電線ヲ通ス  
ルヲ允ス  
布哇ト條約ヲ  
交換ス

カラス。是ニ至テ兩國大吏ヲレテ布斯達ニ會  
シテ之ヲ論決セシメント約ス。故ニ是命アリ。  
適露國遷都ノ議アリ。國內多故ナルヲ以テ公  
使勃祖弗<sup>ヒテツオフ</sup>ヲ本邦ニ遣來テ之ヲ結ハントス。七  
月。種臣空<sup>ソウジ</sup>レク函館ヨリ還ル。六月。是ヨリ先。丁  
未人電信會社ヲ團結シ。止<sup>レ</sup>百利亞海ヨリ日本  
清印度ノ間ニ海底電線ヲ通センコトヲ圖リ。  
其公使威克靈<sup>ウヰツフルン</sup>ニ就テ長崎ニ聯續セント請フ。  
之ヲ允ス。是月工成ル。米國電信社モ亦之ヲ函  
館及ヒ他港ニ通セント請フ。亦允ス。七月。布哇

欽差全權大臣  
伊達宗城清國  
ト條約ヲ交換  
ス

法朗西政體ヲ  
華ヲ共和政治

ト條約ヲ交換ス。是ヨリ先。大藏卿伊達宗城ヲ  
欽差全權大臣ト爲シ。國書ヲ授ケ。之ヲ清國ニ  
遣リ。便宜條約ヲ締ハシム。外務大臣柳原前光  
等之ニ副ス。是月。亦條約ヲ交換ス。其條規ヲ定  
ムルヤ。左院議シテ條規内公法中立ノ權ヲ害  
スル者アリト爲シ。之ヲ法司ニ致サントス。昔  
アリ。急ニ宗城等ヲ召還ス。法學士蘓密<sup>スミット</sup>多以テ  
害ナシト爲ス。乃チ事ナキコトヲ得タリ。八月。  
英吉利代理公使阿但士<sup>アダン</sup>澳大利皇族非<sup>フ</sup>不<sup>ブ</sup>左<sup>サ</sup>兒<sup>ル</sup>  
ヲ導テ入見ス。是ヨリ先。法朗西獨逸ト和シ。其



ト為レ的以爾  
ヲ推テ大統領  
トナス

大正紀要

續編

政體ヲ革メテ共和政治トシ。的以爾ヲ推シテ  
大統領ト爲ス。九月、公使以聞ス。時ニ代理公使  
入連来テ烏多利ニ代ル。俱ニ入見ス。朝議將ニ  
大使ヲ列國ニ遣リ聘禮ヲ修メントス。乃チ烏  
多利ニ別諭アリテ、善ク之ヲ大統領ニ囑セシ  
ム。米利堅水師提督羅治爾士モ亦召見勅諭ア  
リ。羅治爾士奏對シ我カ開成ノ奮進駿速ナル  
ヲ稱賛ス。是月、荷蘭兼瑞典、那威辦理公使芳得  
福豐入見ス。瑞典那威ノ嚮ニ條約ヲ結フヤ、芳  
得福豐專ラ之ニ幹當セリ。是ニ至テ其辦理公

全權大使岩倉  
具視ヲ歐亞列  
國ニ遣ル

使ノ兼攝ヲ命セラレ任状ヲ上ル。十月、外務卿  
岩倉具視ヲ右大臣兼特命全權大使ト爲ス。初  
メ復古ノ際、東久世通禧ヲ遣リ歐亞各國ニ巡  
聘セシメントス。時方ニ國家多故ナルヲ以テ  
往クコトヲ果サス。是ニ至テ條約重修ノ期既  
ニ近キヲ以テ、更ニ之ヲ具視ニ命シテ列國ニ  
就テ商議セシム。乃チ參議木戸孝允、大藏卿大  
久保利通、工部大輔伊藤博文、外務少輔山口尚  
芳ヲ以テ之ニ副フ。十一月、上具視ヲ召見テ親  
ラ聖書ヲ授ケテ之ヲ遣ル。蓋シ欽命ヲ奉スル

大正紀要

續編

所ノ者凡テ十五國ナリ。初メ山陽南海ノ測海  
 ヲ英艦ニ允セシヤ。翌年先ツ西南内海ノ航路  
 ヲ測リ。法艦亞斯備格<sup>アスベック</sup>モ亦測驗ス。朝廷モ亦  
 久レク北海ノ危険ニ憂フル所アリ。伎術ノ精  
 ナラサルヲ以テ。英艦ニ囑シテ其沿海ヲ測ラ  
 シメ。爲メニ煤炭ヲ北海諸港ニ供フ。是月。又英  
 艦ニ山陽南海志摩沿岸ノ測量ヲ聽ス。十二月。  
 澳地利ト本條約ヲ互換ス

列國公使始テ  
 新正ヲ賀ス

五年正月。伊太里等十二國ノ七公使朝見シ。並ニ  
 新正ヲ賀ス。外國公使ノ朝正ハ此ヨリ始ル。明

年又公使ノ妻及ヒ在京外人ノ待ツニ奏任ヲ  
 以テスル者モ亦賀正ヲ准ス。二月。獨逸公使方  
 不<sup>ブラント</sup>蘭入見。國書ヲ上リテ辦理公使タルヲ奏ス。  
 三月。英國代理公使阿丹士<sup>アダムス</sup>獨逸駐劄書記官ニ  
 轉任シ。將ニ其國ニ還ラントシテ入朝辭見ス。  
 和錦鬆器ヲ賜フ。翌月。代理公使華德遜<sup>ワットソン</sup>至ル。四  
 月。外務卿副島種臣大輔寺島宗則ニ條約修正  
 ノ審査ヲ命ス。既ニシテ大藏省三等出仕上野  
 景範モ亦命ヲ受ク。然トモ久クシテ事行ハル  
 ルヲ果サス。外務大輔寺島宗則ヲ大辨務使ト

大政要

大政紀要

爲シ。國書ヲ授ケテ英吉利ニ遣リ。少辨務使森  
有禮ヲ中辨務使ト爲ス。五月。又少辨務使藪島  
尚信ヲ中辨務使ト爲シ法朗西ニ駐ム。是ヨリ  
先。副使大久保利通。伊藤博文。俄ニ海外ヨリ還  
ル。是月再ヒ米利堅ニ往ク。宗則モ亦與ニ偕ニ  
航發ス。神奈川砲臺祝砲ノ儀アリ。是月。英國代  
理公使華德遜内廷ニ入見ス。代理公使ハ原ト  
朝見ノ權ナシ。其新任ナルヲ以テ特ニ召見ヲ  
聽ス。故ニ國書ヲ上ラヌ。魯國代理公使勃祖弗  
モ亦至テ入謁ス。勃祖弗ハ前日函館ニ在テ領

代理公使ニ内  
廷謁見ヲ聽ス

事ト爲ル者ナリ。時ニ其海軍少將勳索斯幾東  
洋艦隊ヲ以テ来ル。勃祖弗引導レテ内廷ニ入  
見ス。海軍士官等十一人之ニ随フ。我漂民曩ニ  
魯艦ノ援ケル所トナル。勳索斯幾其艦ニ載セ  
至ル。故ニ勅諭之ニ及フ。法國水師提督加兒諾  
モ亦至ル。代理公使入連引導レ亦内謁ス。傳云  
フ是ヨリ先。公使入見ニ上立御ノ禮ナシ。華德  
遜之ヲ争フニ迄テ式禮一變セリト。七月。荷蘭  
公使芳得福豐我カ大使ノ海牙ニ抵リ條約修  
正下關償金ノ商議アルヲ以テ。俄ニ其國ニ召

大政紀要



サレ。辭見レテ還ル。是月。大使龍動ニ抵ル。初メ  
 復古ノ際。宗氏ニ命シテ大政ノ變革ヲ朝鮮ニ  
 告ケレメレニ朝鮮答ヘス。既ニシテ米利堅ノ  
 將ニ釁ヲ啓カントスルヤ。朝議尚ホ其舊交ヲ  
 志レス。外務權少丞吉岡弘毅ニ内諭ヲ授ケ。其  
 間ニ居リ和解ヲ圖ラシメ。以テ事ナキヲ得。廢  
 藩ノ後ニ及フト雖モ。猶ホ其尋交ノ故ヲ以テ  
 宗重正ヲ外務大丞ト爲シ。其舊家士ヲ草梁館  
 ニ置キ。餘議ヲ繼カシメ。前後辨論數十回ニ至  
 ルト雖モ韓吏曉ラス。我カ又書例格。制度衣服

ノ舊觀ヲ改ムルニ諉言シ。曖昧模稜徒ニ日月  
 ヲ遷延シ。終ニ我カ文契ニ接セス。是ニ於テ士  
 民其無禮ヲ憤リ。朝野ノ間。征韓ノ議作レリ。然  
 トモ征韓ハ朝廷ノ素議ニ非ス。是月。其交際事  
 宜。漂民處分ヲ外務省ニ付シ。舊嚴原藩士ノ長  
 崎及ヒ草梁館ニ居ル者ヲ罷還ス。八月。外務大  
 丞花房義質。少記森山茂。廣津弘信。陸軍中佐北  
 村重頼等ヲ朝鮮ニ遣リ。歲遣船ヲ罷メ。舊欠債  
 ヲ辨償シ。漂民ヲ刷還シ。僅ニ外務少録與義制  
 ヲ草梁館ニ駐メ。商民ノ去留ニ任ス。猶ホ其勘

合印ヲ存シ。以テ後圖ト爲シ。姑ク其他日ノ悔  
 悟ヲ待ツ。是ニ於テ草梁館ノ貿易頗ニ衰フ。九  
 月。澳地利辦理公使格カ塞將ニ其國ニ告歸セ  
 ントシ入朝辭見ス。是ヨリ先。二年九月始テ至  
 ル。是ニ於テ英國代理公使華德遜其後事ヲ攝  
 ス。是月。魯西亞皇子阿カ修將ニ大地ヲ周遊セ  
 ントシ。香港ヨリ長崎ニ至ル。初メ五月中來賓  
 ノ報アルヤ。從三位伊達宗城。外務大臣官本小  
 一及ヒ大原重實ヲ接伴委員ト爲シ。宗城ヲ長  
 崎ニ遣リ迎接セシム。十月。皇子入京朝見ノ儀

魯國皇子來賓

全權辦理代理  
三公使ヲ置ク

アリ。之ヲ延遼館ニ館シ。上親ヲ臨問ス。待遇儀  
 典。大略英國皇子ニ同シ。在京僅ニ八日。海路函  
 館ニ赴ク。宮内少輔吉井友實ヲシテ日進艦ヲ  
 以テ之ヲ護送セシム。是月。辦務使大少記ヲ廢  
 シ。特命全權。辦理代理三公使及ヒ書記官ヲ置  
 キ。寺島宗則ヲ特命全權公使ト爲シ。齋島尚信  
 及ヒ外務省三等出仕上野景範ヲ辦理公使ト  
 爲シ。森有禮ヲ代理公使ト爲シ。景範ヲ米利堅  
 ニ遣ル。十一月。景範ヲ外務少輔ト爲シ。有禮ヲ  
 以テ之ニ代フ。是月。伊太里公使澳斯の在內廷

大正  
正統  
要  
編

ニ入見シ。國書ヲ捧ケ王孫ノ生誕ヲ奏ス。花房

義實朝鮮ヨリ還ル

六年正月。工部省三等出仕佐野常民ヲ辦理公使

ト爲レ伊太里澳地利ニ遣ル。博覽會副總裁故

ノ如シ。獨逸人西保徳セイボルトヲ公使館記録係ト爲シ

テ之ニ附隨ス。總領事中山讓治伊太里ニ赴ク。

常民モ亦尋テ發ス。是月。大使岩倉具視制ヲ承

ケテ新ニ公使館ヲ獨逸伯靈ニ設ケ。辦理公使

數島尚信ヲシテ法朗西ヨリ之ヲ兼攝セシム。

二月。外務卿副島種臣ヲ特命全權大使ト爲シ。

特命全權大使  
獨逸ニ置ク

特命全權大使  
副島種臣ヲ清

國ニ遣テ批准  
條約ヲ交換ス

重書ヲ授ケテ之ヲ清國ニ遣ル。批准條約ヲ交

換セントス。大丞柳原前光。少丞平井希昌。鄭永

寧ヲ之ニ副ス。是ヨリ先。臺灣蕃我カ琉球及ヒ

小田縣ノ漂民ヲ亮殺スルヲ以テ將ニ其罪ヲ

問ハントス。而ルニ臺灣ノ地タル。鄭氏清祖ニ

降リレヨリ。清國府縣ヲ置クト雖モ。東部ノ如

キハ之ヲ化外ニ弃テ。復タ政教ヲ敷カス。是ニ

至テ又内省ヲ種臣ニ授ケテ。之ヲ清國ニ通報

セシム。是ヨリ先。米利堅厦門領事李儂セシトル徳久シ

ク清ニ在テ善ク臺灣ノ地理民俗ヲ諳ス。適官

大正  
文  
史  
集



米人李仙僊ヲ  
以テ准ニ等出  
仕ト為シ機密  
ニ奉セシム

遣外使臣ノ妻  
ヲ携フルヲ  
聽ス

ヲ罷メ其國ニ歸ラントシ長崎ニ至ル本邦其  
 人ヲ覓ムルニ會シ公使底命克之ヲ薦ム乃チ  
 東京ニ召シ機密ニ奉ス遂ニ蕃地事務局准ニ  
 等出仕ト為シ月俸千圓ヲ給ス亦特例辦務使  
 ト為リ種臣ニ從テ清國ニ赴ク是月遣外公使  
 領事書記官ニ其妻女ヲ携フルヲ聽シ舟車ノ  
 費贖ヲ賜フ時ニ外務書記官渡邊洪基其室ヲ  
 携帶セント請フ之ヲ允ス是ヨリ使臣ノ海外  
 ニ出ル者ハ例妻女ヲ帶フ伊太里公使澳斯  
 丘吉歸ヲ以テ内廷ニ解見ス書記官利達代理

白露公使始テ  
至ル

駐劄ノ命アリ未タ至ラス横濱領事巴勒利ニ  
 附シテ暫ク後事ヲ攝セシム米國人玻印頓其  
 公使ニ就テ聖像ヲ賜ハテシコトヲ請フ蓋シ  
 海外列國ノ俗諸帝王名臣ノ畫像ヲ裝飾シテ  
 畫室ニ掲ケ以テ史傳ノ聞見ヲ博ム故ニ此請  
 アリ朝議允サス三月白露特派全權公使俄爾  
 志至ル是ヨリ先白露我カ風聲ヲ傳聞レ將ニ  
 使臣ヲ遣來リ好ヲ我ニ結ハントス適馬利耶  
 爾士ノ事作ルニ會シテ至ルヲ果サス米國公  
 使爲ニ其好意ヲ通ス是ニ至テ入見レ國書ヲ

遣外官吏ノ恩賜金ノ停ム

外人ト婚嫁ヲ通スルヲ許ス

上ル。白露公使ノ至ルハ此ニ昉ル。英國代理公使華德遜入見。其親翰ヲ上リ大使ヲ辱クスルヲ謝ス。特命全權公使巴克斯復タ至ル。初メ庚午年間。始メテ兩辦務使ヲ海外ニ派スルヤ。諸經費ノ外。別ニ恩賜金ヲ給ス。時ニ之ヲ恩典ト稱ス。後恒例トナル。是ニ至テ遣外官吏絡繹前後相繼クヲ以テ遂ニ之ヲ停ム。是月。國民ニ外人ト婚嫁ヲ相通スルヲ許ス。是ヨリ先。慶應ノ末。幕議既ニ之ヲ聽ス。復古以來。未タ之ヲ議スルニ及ハス。去歲英國領事又之ヲ質ス。是ニ至

布哇帝崩ス

テ其制ヲ定メ。本邦婦女ノ外人ニ嫁スル者ハ。隨身ノ財産ト雖モ其不動産ニ係ル者ハ之ヲ有スルヲ許サス。四月。魯西亞皇子復タ長崎ニ入ル。澤宜嘉ヲシテ之ヲ迎接セシム。初メ其函館ニ至ル。洋元三百弗ヲ其貧民ニ賑ス。既ニシテ又兵庫ニ施シ。是ニ至テ又大阪長崎ノ貧民ニ洋元ヲ惠施スル各々差アリ。幾モナク退港セリ。是ヨリ先。十二月。布哇帝加麥巴美霸崩ス。從弟路那里立ツ。是月。米利堅兼布哇公使底俞克入見シ。布哇國書ヲ上リ。其喪ヲ告ケ嗣君ヲ

兩聖ノ影像ヲ  
英國公使巴克  
斯ニ賜フ

公使領事ノ官  
印ヲ造ル

通ス。英國公使巴克斯モ亦入朝ス。之ヲ學問所  
ニ延見ス。大使ノ龍動ニ在ルヤ、巴克斯其間ニ  
在テ善ク彌縫款待ス。勅諭之ニ及フ。皇后モ亦  
出テ始テ巴克斯ヲ見ル。兩聖ノ影像ヲ賜フ。蓋  
シ特典ト爲ス。是時ニ方テ副島種臣清國天津  
ニ在リテ大學士李鴻章ト條約ヲ交換ス。幾モ  
ナク北京ニ抵リ。恭親王諸大臣ニ會シ。臺灣蕃  
ノ事ヲ議結シ。七月北京ヨリ復命ス。五月伊太  
利代理公使利達至ル。離宮ニ入見ス。是月公使  
領事ノ官印ヲ造ル。其制公使ハ銀。領事ハ銅ヲ

用ヒ。中央ニ菊花ヲ畫キ。在某國日本公使館若  
クハ領事館之章等ノ漢字ヲ右旋環書シ。輪廓  
ニ譯洋字ヲ環ラズ。皆之ヲ陽出ス。明年其織蠟  
洋紙ニ鈐捺スルニ宜シカラサルヲ以テ之ヲ  
陰出ニ改ム。六月英國公使其二等水師提督威  
爾ヲ導テ内廷ニ見ユ。貴族公得暹モ亦入謁ス。  
七月法朗西特命全權公使赫的美荷蘭辦理公  
使威克靈入見シ。圖書ヲ上リ各其新舊交替ヲ  
奏ス。赫的美ハ烏多列ニ代リ。威克靈ハ芳得福  
豐ニ代ル。威克靈別書ヲ上リ。大使ヲ辱クスル



ヲ謝ス。幾モナク又入見。瑞典國書ヲ上リ兼攝  
 使タルヲ奏ス。法國代理公使入連モ亦内謁シ。  
 翌日解纜ス。魯國代理公使勃祖弗モ亦其海軍  
 少將緬利麥爾ト俱ニ入見ス。勃祖弗ハ國書ヲ  
 上リ大使ヲ辱クスルヲ謝ス。是月。代理公使森  
 有禮米利堅ヨリ還ル。八月。伊太里皇族熱那侯  
 至ル。宮内卿徳大寺實則侍從長東久世通禧之  
 カ接伴トナリ。亦之ヲ延遼館ニ館ス。熾仁嘉彰  
 博經三親王其至ルニ先テ客館ニ待ツ。朝覲接  
 待儀並ニ英魯兩皇子ニ准ス。上爲メニ延遼館

伊國皇族來賓

白露ト條約ヲ  
交換ス

法國人馬克封  
大統領ト爲ル

大使岩倉具視  
海外ヨリ復命  
ス

ニ臨問ス。是月。白露ト條約ヲ交換ス。白露  
 土宜若干ヲ獻ス。是ヨリ先。遠物保存ノ定規ナ  
 レ。是ニ至テ進御ヲ除クノ外ハ。一ニ之ヲ延遼  
 館ニ藏弄ス。九月。法國公使赫的密入見。國書ヲ  
 上リ。馬克封ノ的以爾ニ代テ大統領タルヲ奏  
 ス。重書之ニ復ス。是月。大使岩倉具視海外ヨリ  
 還ル。上爲メニ太政官ニ御シテ復命ヲ受ク。副  
 使大久保利通未戸孝允ハ大使ニ先テ前後國  
 ニ還ル。是行ヤ。太平洋ヲ航過シ。先ツ米國ニ入  
 リ。駐ルコト八個月。七月。英國ニ入り。是ヨリ法

朗西白耳義荷蘭字漏生魯西亞丁抹瑞典ヨ經  
 歴シ。轅ヲ回シ。日耳曼ヨリ伊太里澳地利瑞西  
 ニ抵リ。遂ニ地中海ニ出テ。紅海ヲ過キ亞刺伯  
 印度支那海ヲ航シテ復命ス。凡海外ニ在ルコ  
 ト二十一月有二旬。西班牙葡萄牙二國ハ内變  
 ニ會シ至ルヲ果サス。其間聞見ニ獲ル所極テ  
 多シ。為ニ大仗事務局ヲ置キ。諸員ノ記録スル  
 所ヲ蒐閱シテ其勞否ヲ檢ス。文部大輔田中不  
 二磨ノ教育章程尤モ詳悉ナリト為ス。初大使  
 ノ桑港ニ抵ルヤ。土人波羅的頓ヲ雇テ姑ク我

領事不爾克ニ代ヘ。不爾克ヲ以テ嚮導ト爲シ  
 列國ヨリ經歷ス。是ニ至テ又從テ木邦ニ至ル。侍  
 從長河瀬真孝ヲ辦理公使ト爲シ。伊太里澳地  
 利ニ遣ル。幾モナク特命全權公使ト爲シ。伊太  
 里ニ駐劄シ。澳地利ヲ免ス。十月公使寺島宗則  
 病アリ。龍動ヨリ還ル。公使ヲ免シ。參議兼外務  
 卿ト爲シ。外務大臣柳原前光ヲ代理公使トナ  
 シ。荷蘭白耳義ニ遣ル。初メ荷蘭前任公使勃爾  
 斯伯海牙ニ在テ我辦理公使タラシトヨ請  
 フ。朝議其國ノ偏小交際ニ切要ナラサルヲ以

大政紀要

テ聴サス是ニ至テ猶ホ往クコトヲ果サス。是ヨリ先、米利堅公使底命克暫ク其國ニ還ル。辭職ノ聞アリ。朝廷其久レク本邦ニ駐リテ能ク國情ニ熟スルヲ惜ミ之ヲ留メント欲ス。時ニ森有禮代理公使トナリテ華盛頓ニ在リ。諭シテ其國ニ請ハレム行ハレス。是月、賓漢ヲ特命全權公使ト爲レ來テ底命克ニ代ラレム。是ニ至テ新舊公使相率テ内廷ニ入見シ。國書ヲ上リ交替ヲ奏ス。米利堅人達意門ヲ雇テ我公使館内記ト爲シ。月俸四百廿五圓ヲ給ス。十一

葡萄牙始テ專任公使ヲ本邦ニ置ク

月。葡萄牙特派全權公使若諾瓦利至リ。入見國書ヲ上リ。駐劄公使タルヲ奏ス。初メ締約以來。未タ嘗テ公使ヲ我ニ置カス。瑪港鎮將ヨリ公事ヲ兼理セレム。其特使ヲ置クハ蓋シ此ヲ始ト爲ス。魯西亞代理公使勃祖弗清國ニ轉徙シ。其在清公使高蘭牙利至ル。嚮ニ副島種臣ノ清ト條約ヲ訂結セルヤ。後事ヲ高蘭牙利ニ托ス。是ニ至テ引見ヲ内廷ニ賜フ。是月又東京鎮臺司令官山田顯義ヲ兼特命全權公使ト爲シ。清國ニ遣ル。幾モナク明年佐嘉ノ役アリ。公使ヲ

大政紀要



大政紀要

解ク。法朗西駐劄辦理公使數島尚信ヲ特命全  
權公使ト爲ス。公使佐野常民羅馬ニ抵リ。伊國  
帝ニ見エ周書ヲ捧ク。十二月。白耳義全權公使  
格羅的モ亦來見シ。新任ヲ奏ス。英國書記官華  
德遜他國ニ轉任スルヲ以テ内廷ニ辭見ス。華  
德遜ハ去歲五月阿丹士ニ代テ公使タリト雖  
モ。巴克斯ノ至ル既ニ公使代理ヲ解ケリ。然ト  
モ其數々事故ニ因テ入見スルヲ以テ故ニ是  
命アリ。是年。正朔ヲ更メテ陽曆ヲ用フ。西班牙  
其國體ヲ改テ共和政治ト爲ス。

西班牙其國體  
ヲ改テ共和政  
治ト爲ス

七年一月是ヨリ先。澤宜嘉ヲ特命全權公使ト爲  
シ。將ニ之ヲ魯國ニ遣ラントス。去秋病ヲ歿ス。  
是ニ至テ海軍中將榎本武揚ヲ兼特命全權公  
使ト爲シ。宣嘉ニ代ヘテ魯西亞ニ遣ル。荷蘭醫  
士林伯ヲ雇テ公使館ニ附ス。其英法序三國ノ  
語ニ通シ。又能ク外交事宜ヲ曉ルヲ以テナリ。  
是ヨリ先。獨逸聯邦薩撒各堡額達侯ノ姪斐立  
來見シ。優遇ヲ蒙ル。是月。大綬章ヲ致シテ聖上  
ニ上リ。又外務卿副島種臣ニ贈ル。外國ヨリ勳  
章ヲ上ルハ蓋シ此ヲ始ト爲ス。二月。是ヨリ先

薩古斯侯始テ  
一等勳爵ヲ聖  
上ニ上ル

英國人已前的  
觀象臺ヲ東半

大政紀要

球ニ設ケ氣候  
ヲ相通セレコ  
トヲ謀ル

大清國  
正統  
紀略

清國稅關總監英國人巴爾的觀象臺ヲ亞細亞  
海各港ニ設ケ。風雨氣候ノ變化ヲ每日交互各  
口ニ電通シ。以テ航海者ニ便セシコトヲ圖ル  
其法タル線路北ハ波雪土ヨリ起リ。南ハ南洋  
板答非ヲ限リ。其中間ニ於テ十二ノ觀象臺ヲ  
置キ。分テ三區ト爲レ。北方及ヒ中央ノ電信ハ  
長碕ヨリシ。南方及ヒ中央ハ香港ヨリシ。以テ  
南北ヲ聯絡シ。東半球ノ錫蘭ヲ塞カントス。蓋  
レ西半球ハ既ニ其設アレハナリ。之ヲ神奈川  
縣令大江卓ニ告ケ。其約ヲ結ハント請フ。縣令

始テ公使館ヲ  
清國ニ置ク

以聞ス。官其書ヲ外務海軍工部ノ三省ニ下シ  
テ所見ヲ上ラシム。外務省議其使ナルヲ言フ。  
是ニ至テ其議ヲ納レ。其甲部ノ約ヲ結フコト  
ヲ聽ス。甲部ハ其中央長碕ヨリ香港ニ至ルノ  
線路ナリ。然トモ後チ行ハルルコトヲ果サス。  
是月。代理公使柳原前光ヲ清國ニ遣ル。三月。更  
メテ特命全權公使ト爲シ。璽書ヲ授ケ。外務一  
等書記官鄭永寧ヲ以テ之ニ副ス。是ニ於テ始  
テ公使館ヲ清國北京ニ置ク。清ノ國タル。固ヨ  
リ隣壤密通。既ニ約ヲ締ヒ商ヲ通スレハ。士商

大政紀要 編



大政要

征蕃ノ事起ル  
列國公使裁外

ノ絡繹來往スルヤ見ルヘキナリ。而ルニ其疆  
域ノ大ナル方音殊異。其國人ト雖モ通譯ヲ經  
サレハ話語スル能ハサル者アリ。就中京音ヲ  
解セサレハ官事ヲ辨スルヲ得ス。是ニ於テ漢  
語生ニ員ヲ前光ニ付シ。書手ト為シ。旁ラ京音  
ヲ習ハシム。是月。特命全權公使河瀬真孝羅馬  
ニ抵リ。辦理公使佐野常民ト俱ニ伊太里帝ニ  
謁見シ。璽書ヲ奉レ常民ニ代ルヲ告ク。常民羅  
馬ニ在ルコト僅ニ百餘日。辭見シテ維納ニ還  
ル。四月。臺灣征討ノ事起ル。初メ大使副島種臣

國人船ヲ用フ  
ルヲ停ム

ヲ清ニ遣ルヤ。清吏蕃地ハ其化外タルヲ明言  
ス。故ヲ以テ前日出師ニ先テ。之ヲ列國公使ニ  
告ケ。締約國ノ人船ヲ用フルモ。清國ニ異議ナ  
キヲ諭ス。是ニ於テ米國ノ汽船紐育號ヲ僦賃  
シ。李僊德加塞爾華孫三人及ヒ我兵ヲ載セテ  
清國廈門ニ遣ル。清吏違言アリ。五月。英米兩公  
使巴克斯賓漢等書ヲ外務卿寺島宗則ニ致シ。  
中立ノ公法ニ違フヲ以テ。人船ノ使用ヲ停メ  
ンコトヲ請フ。乃チ電信ヲ長崎ニ飛ハシテ其  
船ヲ止ム。李僊德等三人遂ニ海ニ入ル。初メ朝

大政要



大正三年  
五月  
要

議ノ李儂徳ヲ遣ルヤ。福建總督李鶴年等ニ就  
テ我征蕃事情ヲ疏解セシメントナリ。其厦門  
ニ抵ル。米國領事ノ勾留スル所トナリ。遂ニ福  
建ニ入ルヲ得ス。加塞爾華孫等二人ハ遂ニ臺  
灣ニ至レリ。是月。條約修正ノ議ヲ起スヲ以テ。  
外務省中ニ取調局ヲ置キ。内務。大藏。司法ノ三  
卿ニ命シ。各省ヨリ理事官ヲ撰任シ。外務理事  
官ニ會同シ。各其干涉ノ條件ヲ妥議セシム。蓋  
シ條約ノ修正ハ外務官ノ專任スル所ナリト  
雖モ。内外交渉ノ法律ハ司法ニ係リ。輸出入諸

條約修正ヲ以  
テ取調局ヲ外  
務省ニ置ク

税ハ大藏ニ係リ。市街治法旅行等ハ内務ニ係  
ルヲ以テ。交互協同セサルヲ得ス。然トモ外情  
ヲ辨知セサレハ。外務官ヲ主管ト爲レテ法案  
ヲ立テシム。六月。魯國代理公使兼總領事蕪耳  
衛来テ勅祖弟ニ代ル。内廷ニ入見ス。花房義質  
ノ魯國帝ニ見ルヤ。皇后ニ謁スルヲ以テ。是ニ  
於テ皇后モ亦出テテ見ル。是月。我辨理公使鮫  
島尚信法國大統領ニ謁シ。圖書ヲ捧ケ駐劄公  
使タルヲ告ク。大統領賞牌ヲ尚信ニ授與ス。七  
月。公使榎本武揚彼得堡ニ抵リ。魯西亞帝ニ見

大正三年  
五月  
要

公使榎本武揚  
格爾查先ト樺  
太諸島ヲ交換  
ス

ヲ書シテ捧ク。帝諭アリ。極テ懇篤ト爲ス。語次  
 其荷蘭留學中ノ數事ニ及フ。是ヨリ先、米國測  
 量艦多、斯加拉蹄ニ東海ノ測水ヲ聽ス。是月又  
 英國費兒以蹄ノ請ヲ聽ス。尋テ又内海西南縁  
 海ヲ測ラント請フ。又之ヲ聽ス。並ニ沿海府縣  
 ニ命シテ柴水需用ヲ給セシム。是ヨリ先、二月。  
 布哇帝路那里羅崩シ其族加拉克哇嗣ク。是ニ  
 至テ布哇公使佛羅温入見シ。周書ヲ上リ。大喪  
 ヲ計ケ嗣君ヲ通ス。八月。公使榎本武揚魯國大  
 臣格爾查先ト樺太古里兒諸島交換ノ約書ヲ

互換ス。嚮ニ參議副島種臣ニ勅諭ヲ授ケ。布斯  
 連港ニ遣テ北地交界ヲ定ムルコトヲ議セシ  
 メントス。終ニ往クコトヲ果サス。開拓次官黒  
 田清隆既ニ樺太全島ヲ弃ツルノ議ヲ起セリ。  
 六年五月。遂ニ上言シテ。其地ヲ弃テ專ラカヲ  
 北海道ニ用ヒンコトヲ奏請ス。大約言フ樺太  
 ノ地タル。絶域ノ孤島。窮陰沍寒ニシテ地素ト  
 碭确乍鹵。栽培ノ施スヘキニ非ス。地方曠莫ニ  
 シテ民口僅少ナレハ。開墾經費ノ巨大ナル蓋  
 シ測ル可カラス。復古以來。糜費スル所既ニ七



大政綱要

千萬圓ニ幾シト雖モ未タ一利寸功ノ興ルヲ  
觀ス。今ヨリ以往。朝廷一時其費ヲ繼クト雖モ。  
數年ノ後若シ之ニ繼クコト能ハサレハ。則十  
日之ヲ暖メテ一日之ヲ寒ヤスニ殊ナラス。前  
功悉ク廢棄スルニ至ラン。カヲ無用ノ地ニ賣  
サンヨリハ。孰レカ之ヲ弄テ賦ヲ北海ノ經理  
ニ用フルニ如カン。則テ魯國ノ北疆ノ大地ヲ  
合衆國ニ賣ルハ是レ其計ナリ。願クハ其名ヲ  
弄テ、其實ヲ取り。姑息ヲ去リテ勇斷ニ就キ。  
以テ一定不拔ノ略ヲ建テント。朝議蓋シ之ヲ

納ル。嚮ニ武揚ヲ魯國ニ遠ルヤ。訓條ヲ授ケ全  
權ヲ委ス。是ニ至テ三年ヲ期シ。西島居民ノ去  
就ヲ定メ。楠溪輸出入ノ商物ハ十年内ハ稅ヲ  
課セサルヲ約ス。是月。魯國理事官拔刺巴斯等  
至ル。乃チ内廷ニ延見シ。賓禮ヲ以テ之ヲ待チ。  
開拓中判官長谷部辰連出仕時任爲基ヲ理事  
官ト爲ス。既ニ約書ニ鈐印シ。海路ヨリ北地ニ  
赴キ。黒田清隆ハ吉里兒ニ。長谷部辰連ハ樺太  
ニ往キ。交換式ヲ行フ。是ニ至テ北地交界ノ議  
全ク結ヘリ。米利堅陸軍將馬耶士等入見軍器

大政綱要



ヲ獻シ。我カ城堡ヲ觀覽セント請フ。陸軍大佐  
 原田一道ニ命シ。導テ大阪熊本ノ二鎮臺ヲ往  
 觀セシム。是月。外務一等書記官青木周藏ヲ代  
 理公使ト爲シ。獨逸ニ遣リ。九月。大藏少輔吉田  
 清成外務少輔上野景範ヲ並ニ特命全權公使  
 ト爲シ。清成ヲ米利堅ニ。景範ヲ英吉利ニ遣ル。  
 伊太里公使利達内廷ニ入見シ。國書ヲ捧テ。駐  
 劄公使ヲ其國ニ辱クスルヲ謝ス。獨逸海軍指  
 揮官來普<sup>ライプニッツ</sup>モ亦伊太里公使ト俱ニ入見ス。初  
 メ獨逸領事ノ函館ニ害セララルヤ。急ニ官吏

森山茂ヲ朝鮮  
 ニ遣リ尋交ノ  
 道ヲ伺ク

ヲ派セント欲スルニ船便ヲ得ス。來普<sup>ライプニッツ</sup>其艦  
 ヲ以テ之ヲ送リ。爲メニ其機ニ及フコトヲ得  
 故ニ召見ヲ賜フ。魯西亞海軍總督緬<sup>ミューメル</sup>利麥爾兵  
 艦二隻ヲ以テ橫濱ニ至ル。亦入見ス。伊國特派  
 全權公使澳<sup>オース</sup>斯的<sup>トリス</sup>左<sup>フ</sup>復タ至ル。亦内廷ニ謁見ス。  
 十月。是ヨリ先。佐嘉ノ賊或ハ征韓ヲ名トシテ  
 兵ヲ擧ク。畿モナク又討蕃ノ役興ル。韓人傳聞  
 シテ既ニ疑懼ヲ懷キ。國論稍ク將ニ變セント  
 ス。五月。森山茂ヲ遣テ其情ヲ探ラシム。六月。釜  
 山ニ抵リ。閩使ヲ發シテ屬官ノ書ヲ東萊府ニ

致レ。尋交ノ意ヲ通レ。阻隔ノ惑ヲ辦セシム。時ニ朝鮮官吏ヲ黜涉レ。府使訓導譯官既ニ其人ヲ易フ。按察使其間使南存源ヲ遣來リテ我情ヲ覘フ。茂諭スニ本邦ノ政體ヲ以テレ。皇勅ノ文字ヲ辨諭ス。漸ク曉ル所アルカ如レ。既ニレテ九月新訓導玄昔運至ルニ送テ。責ムルニ辛未書契ノ回信ヲ以テレ。遂ニ三件ヲ示レテ回答二十許日ヲ約ス。一ヲ壬申ノ回信ト爲レ。二ヲ新書契發付ト爲レ。三ヲ本邦聘使ト爲ス。以テ其一ニ居ルヲ要求ス。適趙寧夏京城ヨリ書

ヲ致レ。前日ノ阻隔ヲ辭謝スルニ會レ。又復書レテ回信ヲ促レ。遂ニ新書契ノ報ヲ得テ。廣津私信ヲ留テ復命セリ。是ニ於テ朝鮮尋交ノ道稍ク開クヲ得タリ。十一月。辦理大臣大久保利通清國ヨリ歸ル。和成ルヲ以テ公使柳原前光ヲ留ム。前光清帝ニ紫光閣ニ見エ。圖書ヲ捧ク。帝勅諭アリ。禮記テ饗饌ヲ總理衙門ニ賜フ。是日。米國新任全權公使モ亦引見アリト雖モ。禮饌ヲ賜フハ獨リ前光ノミ。翌月清國ヨリ還ル。桑港領事補助不爾克ヲ以テ華盛頓公使館書

記官ト爲ス。公使吉田清成ノ請ニ因テナリ。是時ニ方テ始テ公使館ヲ獨逸英吉利米利堅ニ置キ。百事草創。文書旁午。外人ノ手ヲ假ラサレハ事ヲ辨給スルヲ得ス。外務卿寺島宗則上言シ。各館ニ外人一人ヲ定員ト爲シ。俸四百元以下ヲ限リテ之ヲ雇用セシト請フ。之ヲ聽ス。故ニ此命アリ。十二月。我公使吉田清成米國大統領ニ謁見シ。周書ヲ捧ケ。駐劄公使タルヲ告ケ。清國ノ和解ヲ報陳ス。代理公使青木周藏モ亦伯靈ニ抵リ。獨逸帝ニ内宮ニ見エ周書ヲ奉ス。

清國帝崩ス

澳地利辦理公使西不爾來リテ格カ塞ニ代ル。入朝國書ヲ上リ。駐劄公使タルヲ奏ス。海軍指揮官列塞兒等四人從テ入見ス。英國公使巴克新嚮ニ其代理タルヲ以テ是日亦朝見ス。是歲。朝鮮大ニ饑エ

八年一月。清國帝載淳崩ス。在位十三年。子ナレ。醇親王奕譞ノ子載湉入テ皇統ヲ承ク。實ニ陰曆十二月初六日ナリ。光緒ト改元ス。凡ソ吾國列國自ラ公同ノ例アリ。列國公使ノ清ニ駐ル最モ久シク老成練達スル者ハ。英國公使威圖氏



大政紀要

英法二國橫濱ノ成兵ヲ撤ス

ト為ス。乃チ代理公使鄭永寧ニ命シ。威圖氏ニ  
諮問シ。其式ヲ取テ吊喪賀嗣ノ禮ヲ行ハシム。  
初メ米國水師提督彼理條約ヲ結ヒシヨリ。國  
内士民外人ヲ仇視シ。殺傷絶エス。外商足ヲ累  
不目ヲ側テ。皆其居ニ聊セス。英法二國各兵一  
千五百人ヲ橫濱ニ寘キ。以テ其民ヲ護ス。是レ  
海外ノ俗極テ耻ル所ト為ス。復古以還。外交ヲ  
慎重シ。士民モ亦漸ク外情ヲ曉リ。外人ト親暱  
ス。二年十月外務卿岩倉具視英國公使巴克斯  
ニ會議シ。其成兵ヲ撤センコトヲ請フ。冝ハス。

明年十月又之ヲ兩國公使ニ辨論ス。公使尚ホ  
肯ハス。是ニ至テ内外相親暱スルヲ以テ其兵  
ヲ撤ス。是月其駐劄士官十二人ヲ内廷ニ召見  
シ。慰勞シテ之ヲ遣還ス。獨逸公使方不蘭清國  
ニ轉任スルヲ以テ入朝シ。兩聖ニ謁見ス。葡萄  
牙公使若諾瓦利モ亦其國ニ告歸ス。澳地利公  
使西不爾ハ清國ニ適ク。其清暹羅兩國代理公  
使タルヲ以テ任狀ヲ其國ニ捧ケントナリ。三  
月法朗西公使赫的密故アリテ其國ニ還ル。一  
等書記官貫甸ヲ以テ後事ヲ攝セシム。貫甸公

大政紀要

加藤終要

使ニ随テ内廷ニ入見ス。皇后モ亦出テ見ル。是月。特命全權公使上野景範龍動ニ抵リ。英吉利帝ニ見エ璽書ヲ捧ク。時ニ土耳格公使来テ龍動ニ駐ル。土耳格ノ國タル。風土政教習俗稍東洋諸國ニ近似セリ。廷議以テ他日叅式スル所ノ者アリト爲シ。景範ニ命シテ修好訂約ヲ議セシム。後行ハルルヲ果サス。初メ外邦人ノ我カ難民ヲ救恤スルヤ。一ニ之ヲ内務省ニ委レテ之ニ應酬セシム。是月命アリ。其公使ニ經由スル者ハ外務省ニ。諸省使ニ雇フ者ハ内務省

清國公使館ヲ購買スルヲ聽ス

遣外使臣ニ遊暑旅行ヲ聽ス

ニ付シテ之ヲ處分セシム。四月公使館ヲ清國北京ニ購買スルヲ允ス。初メ公使ヲ置キシヨリ。大抵列國ニ就テ館舎ヲ租賃ス。清國ノ如キハ士民風習頑陋。外人ヲ忌嫉シ。館舎ヲ假スコトヲ悦ハス。偶假ス者アレハ特ニ矮陋湫隘ナルノミナラス。屋租極テ貴シ。是ニ於テ代理公使鄭永寧之ヲ購ハンコトヲ請フ。故ニ是命アリ。是月。又遣外使臣ニ夏秋ノ交避暑旅行ヲ聽ス。蓋シ列國ノ俗ニ徇フナリ。就中北京ノ如キハ人烟稠密。糞穢堆積シ。炎日下射スレハ惡臭

大政記要

鬱蒸堪フ可カラサル者アリ。列國公使預メ別館ヲ畿外山谷中ニ設ケ。夏秋ノ交。例之ヲ避ク。鄭永寧別項費ヲ給付センコトヲ請フ。明年之ヲ允ス。六月。西班牙代理公使阿爾拔列至リ。内廷ニ入見シ。國書ヲ捧ケ。駐劄公使タルヲ奏ス。法朗西臨時代理公使貫甸ハ其水師提督加蘭士等隨從士官十一人ヲ導テ亦入謁ス。是日。露國○按スルニ是ヨリ先魯西亞其國名ニ我カ魯ノ字ヲ用フルヲ嫌フノ傳聞アリ爾後魯ヲ露ニ改メリ海軍總督緬利麥爾下之ニ効フ亦入見ス。是月。丁赫使節拉斯羅非入見シ。國書ヲ捧ケ。往

歲大使ヲ辱クスルヲ謝ス。其特派使節ナルヲ以テ殊ニ禮待ヲ薦クス。京師南都琵琶湖諸名勝ヲ巡覽セント乞フ。之ヲ允ス。英國水師提督來德ライデル等諸艦長十三人ヲ内廷ニ召見ス。是ヨリ先。辦理公使佐野常民ヲ澳地利ニ置ク。其泰西ノ衝要ニ非スシテ本邦ノ干涉少キヲ以テ。是月公使ヲ罷メ。全權公使青木周藏ヲシテ獨逸ヨリ之ヲ兼攝セシム。特命全權公使柳原前光ヲ罷メ。尋テ議官ト爲ス。八月。辦理公使佐野常民ヲ罷メテ議官ト爲ス。十二月。特命全權公使



較島尚信ヲ外務大輔ト爲シ。外務少輔森有禮  
 ヲ特命全權公使ト爲シ。柳原前光ニ代テ清國  
 ニ遣ル。其任ニ赴クヤ。璽書ヲ授クト雖モ。清主  
 幼弱。公使引見ノ禮ナキヲ以テ致スコトヲ果  
 サス。是ヨリ先。八月。朝鮮我カ雲揚艦ヲ砲撃ス  
 ○光暴ノ是月。陸軍中將兼參議黒田清隆ヲ特  
 命全權辦理大臣ト爲シ。議官井上馨ヲ之ニ副  
 シテ朝鮮ニ遣ル。内諭三條ヲ授ケ。權宜事ニ從  
 ハシム。三軍艦ヲ以テ之ヲ護送ス。初メ朝鮮人  
 全麟昇其國ヲ亡命シ。露國浦港ニ流寓ス。既ニ

辦理大臣黒田  
 清隆等ヲ朝鮮  
 ニ遣ル

清國軍艦始テ  
 本邦ニ至ル

澳國太上皇崩  
 ス

黒田清隆等朝鮮  
 修好條約  
 ヲ交換ス

シテ又本邦ニ來テ歸化ヲ乞フ。命シテ滿洲及  
 ヒ朝鮮地誌ヲ編マシム。是ニ至テ使臣ニ從テ  
 朝鮮ニ往ク。清國揚武艦橫濱ニ至ル。水師提督  
 蔡國祥副提督蔡國喜船將英國人拉列西等之  
 ニ駕ス。禮死ノ式アリ。此ヲ清國軍艦中古入港  
 ノ始ト爲ス。是歲。澳地利太上皇約色弗崩ス。時  
 ニ書記官渡邊洪基維納ニ在リ。電信ヲ以テ吊  
 詞ヲ通シ。洪基ヲレテ之ヲ捧ケシム  
 九年二月。黒田清隆等朝鮮大臣申樞等ト修好條  
 規ヲ交換ス。大略朝鮮ヲ視テ獨立國ト爲シ。對

敵ノ禮ヲ用ヒ。今ヨリノ後二十四個月ヲ期トシ。新港ニ所ヲ開キ。自由貿易沿海測量ヲ爲ス等ノ十款條ナリ。初メ清隆等進テ江華灣ニ入り。書ヲ投シテ前日ノ無禮ヲ詰問ス。申樞等分既レテ已マス。清隆之ヲ辨駁シ。遂ニ條規ヲ示シ。十日ヲ限テ回答ヲ要ス。是ニ至テ和議成リ。謝罪書ヲ得。即日江華灣ヲ解纜ス。外務大臣宮本小一ヲ留メテ後事ヲ議セシム。是ヨリ朝鮮モ亦我締約國ニ入ル。復古以還新ニ締約スル者七國。是ニ至テ舊好國ヲ併テ凡テ十八國ト

朝鮮始テ締約國ニ入ル

爲ス。三月。清隆等復命ス。上爲ニ正院ニ御レテ其禮ヲ受ク。列國公使皆賀表ヲ上ル。上之ヲ離宮ニ受ク。露西亞帝電信ヲ以テ祝辭ヲ致ス。公使兼耳衛以開ス。後チ九月ニ至テ清隆等以下文武官兵士八百七十餘人ニ金幣ヲ賜フテ其勞ヲ慰ス。蓋シ金額凡テ一萬六千零四十餘圓ナリト云フ。四月。米利堅東洋艦隊長水師提督禮諾士内廷ニ入見ス。士官二人之ニ從フ。是ヨリ先。公使榎本武揚樺太交換批准約書ヲ彼得堡ニ互換ス。露西亞帝賞牌ヲ賚フ。是月。佩帶タ

露國帝賞牌ヲ榎本武揚ニ授ク



准ス。凡テ列國賞牌ヲ給スル者ハ佩テ以テ禮  
 筵ニ參スルヲ恭ト爲ス故ニ是命アリ。爾後外  
 國ノ賞牌ヲ得ル者ハ奏請ヲ經レハ例佩帶ヲ  
 允ス。是月西班牙ノ亂魁勳ドナルド加羅カロー兵敗レテ法朗  
 西ヨリ英吉利ニ竄ス臨時代理公使中野健明  
 巴勒ヨリ電聞ス。時ニ我公使上野景範適龍動  
 ニ在リ。乃チ景範ニ電命レテ西班牙葡萄牙ニ  
 國ニ聘セシム。初メ大使岩倉具視ノ泰西ニ抵  
 ルヤ。西國方ニ内訌ノ變アルニ會シ。至ルヲ果  
 サス。故ニ此命アリ。景範先ツ巴勒ニ抵テ内訌

公使上野景範  
始テ西班牙葡  
萄牙ニ聘ス

ノ稍ク平クヲ覘ヒ。馬德里ニ入テ西國帝ニ見  
 エ。國書ヲ捧ク。時ニ亂總ニ平キ。凱旋兵府下ニ  
 闌溢シ。雜造殊ニ甚シ。然トモ其古國ナルヲ以  
 テ典禮ノ觀ル可キ者多シ。尋テ里斯本ニ入り  
 葡國帝ニ謁シ。亦國書ヲ上ル。本邦公使ノ西葡  
 二國ニ至ルハ此ヲ始ト爲ス。故ヲ以テ二國ノ  
 待遇モ亦常ニ殊ナリ。西帝皆賞牌ヲ景範ニ授  
 ク。五月景範龍動ニ還ル。時ニ朝鮮既ニ修好條  
 規ヲ訂シ。測量ヲ約スト雖モ陋俗墨守。又其變  
 ヲ激センコトヲ懼ル。是月朝鮮沿海測量心得



朝鮮始テ修信  
使ヲ致ス

外務大臣官本  
小一ヲ朝鮮ニ

朝鮮始テ修信使ヲ致ス

條規ヲ海軍士官ニ付シテ遵守セシム。六月。朝鮮修信使金綺秀等至ル。玄昔運李容肅等上官十二人之ニ随フ。入覲土宜ヲ獻ス。牒書アリ。團書ヲ齎ラサス。復古以還。朝鮮信使ノ至ルハ此ヲ始ト爲ス。初メ信使ノ至ル。韓船脆弱ナルヲ以テ我船船ヲ賃借セシメトヲ請フ。朝議其修好ニ係ルヲ以テ。瀛艦黃龍號ヲ給シテ之ヲ送迎セシム。其京ニ駐ルヤ。朝意之ヲ開導セント欲シ。徧ク諸省寮工作場ヲ縱覽セシム。韓人多クハ觀ルコトヲ欲セシテ還ル。外務大臣官

遺テ修好條規  
附録貿易章程  
ヲ議定ス

本小一ヲ理事官ト爲シ。又朝鮮ニ遣ル。八月。其講脩官趙寅熙ニ會同シ。修好條規附録及ヒ貿易章程ヲ議定ス。大要歐亞列國ト訂約スル所ニ殊ナラス。嚮ニ草梁館ニ守門ヲ設ク。是ニ至テ之ヲ撤シ。各港馬頭ヨリ方十里ヲ行步規程ト爲シ。國貨ヲ韓地ニ通シ。内民ニ韓錢ヲ使用セシムル等ノ項ナリ。初メ我カ朝鮮ノ漂民ニ於ル。元年六月以降。前後數々條規ヲ改定セシニ。是ニ至テ條約己ニ成ルヲ以テ。前規ヲ廢シ。漂地ヨリ徑ニ釜山ニ送り。經費ハ之ヲ朝鮮ニ

大政紀要

大政紀要

始テ勲章ヲ外  
國公使ニ賜フ

取ラレム。是月。西班牙代理公使阿爾拔列內廷  
ニ入見シ。初メテ公使ヲ其國ニ辱クスルヲ謝  
ス。露國辦理公使蕪耳衛ニ一等勲章ヲ賜フ。其  
樺太交換ノ事ニ參スルヲ以テナリ。勲章ヲ外  
國公使ニ與フルハ此ヲ始ト爲ス。十月。蕪耳衛  
入見。圖書ヲ上リ。特命全權公使タルヲ奏ス。是  
月。獨逸艦隊指揮官方門士モ亦入見ス。凡ソ外  
國武官ハ少將以上ヲ除クノ外。公使ノ引導ヲ  
得ルニ非サレハ特見ヲ得ス。方門士ノ職位少  
將ニ准スルヲ以テ特ニ内謁ヲ賜フ。澳地利公

英國人其君ニ  
印度帝ノ尊號  
ヲ加フ

遣外官史ノ月  
休ヲ改テ年休

使塞布爾爾<sup>セブルル</sup>ニ清國ニ駐劄シテ我國事ヲ兼理  
セリ。是ニ至テ本邦ニ來リ駐劄公使タルヲ告  
ク。是歲。英國人其君ニ印度帝ノ尊號ヲ加ヘ上  
ル。  
十年一月。白露大統領那疏伯德書ヲ致シテ新ニ  
其職ニ就クコトヲ報ス。是月。獨逸公使方不蘭  
入見。圖書ヲ捧ケ辦理公使タルヲ奏ス。三月。米  
利堅水師提督善賢士<sup>セハリス</sup>其代理公使設巴多<sup>セバルト</sup>ニ就  
テ其軍艦ニ臨幸センコトヲ乞フ。允サス。内謁  
ヲ乞フ。之ヲ聽ス。是ヨリ先。公使領事書記生ノ

大政紀要



ト為シ又費用  
條例ヲ定ム

九月  
月俸ヲ更メテ年俸ト爲シ。定額外別ニ機密用  
金ニ萬圓ヲ給ス。又其費用條例ヲ定メ。今年ヨ  
リ以往二年ノ間五十萬圓ヲ限ト爲ス。蓋是時  
ニ方テ公使ヲ置ク者八國。領事ヲ置ク者十一  
所アルニ至ル。猶ホ朝鮮等ノ如キ増員ヲ要ス  
ルノ勢アルヲ以テ。故ニ大ニ諸費ヲ減省スル  
所ヲラントス。是月。米利堅人俄比爾德格蘭ニ  
代テ大統領ト爲ル。伊國公使澳斯オーストリア的スチエのバ西シニ  
轉任シ。法國代理公使貫甸モ亦將ニ其國ニ歸  
ラントス。時ニ二國ノ新公使モ亦至ル。諸大臣

米利堅人俄比  
爾德格蘭領ト  
爲ル

我勲章ヲ露國  
帝及諸臣ニ贈  
ル

乃チ新舊公使ヲ延遼館ニ饗ス。澳斯的オーストリアのバ西シハ三  
年始テ本邦ニ至ル。是ニ迄テ凡テ四年時ニ上  
親征京都ニ在リ。乃チ行在所ニ辭見ヲ賜フ。四  
月。菊花大綬章ヲ露國帝ニ贈リ。大臣格グラーフ耳查ヤン克ク  
等以下十九人ニ亦各勲章ヲ授ク。馬利耶士裁  
次ノ勞ニ報スル所以ナリ。我勲章ヲ外國帝王  
ニ贈ルハ此ヲ始ト爲ス。七月。英國ト難船救援  
條規ヲ議定シ。其費類ヲ分別シ。兩國互ニ之ヲ  
辦償スルヲ約ス。法國艦艇シエープリス普理プリ蹄スニ中國海ノ  
測量ヲ聴ス。八月。法國公使約弗羅亞ヨフワリアノ妻某氏

大政紀要



皇后ニ見エント請フ之ヲ允ス。澳國皇族モ亦請フ。又之ヲ允シ。並ニ内廷ニ入見ス。十月米國人不爾克<sup>ブルックス</sup>ヲ延見ス。不爾克ハ我カ桑港ノ舊領事ナリ。大使岩倉具視ニ從テ列國ニ歴巡シ。功勞アリ。故ニ此ノ恩命アリ。十一月外務大書記官花房義質ヲ兼代理公使ト爲シ朝鮮ニ遣ル。黒田清隆ノ修好條規ヲ定ムルヤ。二十四個月ノ後ヲ期シ。西新港ヲ開キ駐京使臣ヲ置ク等ノ諸款ヲ登載スト雖モ。今茲西南ノ役作ルニ會シ。之ニ及フニ違アラズ。是ニ至テ仁川灣ヨ

花房義質ヲ朝鮮ニ遣リ相港地ヲ設定セシム

リ京城ニ入ル。初メ朝鮮ノ款ヲ納ル、ヤ特ニ兵ヲ畏ルルニ出テ。陋習弊俗未タ革除スル所アルニ非ス。義質ノ至ル頗ル物議ヲ動カス。其徑ニ京城ニ入ルヲ詰テ曰ク。使臣ノ入京ハ惟通聘ヲ限リ。而シテ通路ハ通津ノ一路ヲ以テセント欲ス。去歲既ニ茲意ヲ通セリト。是ニ於テ義質大ニ之ヲ辨駁シ。其後言ヲ塞ク。是ヨリ先。朝鮮ニ約スルニ使臣ヲ發スルニ先チ。測海船ヲ遣リ要港ヲ驗出スルヲ以テセシニ。西南ノ役作ルニ及テ。艦船悉ク軍事ニ使用シ。一船

ノ達ルヘキ者ナク。遷延九月ニ至ル。適賊兵戩  
 定ニ就クヲ以テ。前月始メテ海軍中將中牟田  
 倉之助等ヲ發シ測海セシム。而レテ義賢ノ東  
 南海ヲ經テ仁川ニ入ルヤ。時方ニ連日雨雪。之  
 ニ加フルニ風浪ヲ以テシ。港溼ヲ探ルヲ得ス。  
 是ニ至テ義賢開港場ヲ議スルニ。先ツ咸鏡道  
 ノ松田ヲ指ス。韓吏其崇敬地ナルヲ辭シテ峻  
 拒ニマス。崇敬地トハ祖廟ノ在ル所ヲ謂フ。遂  
 ニ明年ノ測海ヲ期シテ還ル。是月露國水師准  
 提督其公使ニ隨テ入見ス。十二月清國公使何

清國公使始テ  
 主ル

如璋等至ル。副使張斯桂。參贊官黃遵憲等之ニ  
 從フ。是ヨリ先。其北洋通商大臣李鴻章公使領  
 事ヲ本邦及ヒ歐亞各國ニ置カンコトヲ建議  
 ス。是ニ至テ入見國書ヲ捧ク。清國ノ公使ヲ我  
 ニ置クハ此ニ昉ル。

國書封囊ノ緘  
 章ヲ定ム

十一年一月。國書封囊ノ緘章ヲ定ム。其式中央ニ  
 菊花ヲ畫キ。大日本帝國政府ノ七字ヲ環書シ。  
 輪廓ニ菊桐ノ枝ヲ畫ケリ。特命全權公使。鮫島

公使ヲ白耳義  
 荷蘭ニ置ク

尚信ヲ法朗西ニ遣リ。白耳義公使ヲ兼ネシメ。  
 獨逸駐劄公使青木尙載ヲシテ荷蘭公使ヲ攝

大政綱要

伊國帝崩ス

セシム。初メ白耳義荷蘭皆公使ヲ置カス。是ニ至テ始テ公使ヲ置ク。是月。露國駐劄公使榎本武揚菊花大勲章ヲ露國帝ニ捧ケ。又旭日章ヲ諸大臣ニ授ク。伊太里帝維多利亞ビクトリア左崩ス。太子温伯德嗣ク。二月。遣外使臣及ヒ奏任官ノ妻女随従スル者ハ皆内謁ヲ聽ス。但洋制禮服ヲ用フルヲ許サス。三月。澳地利上皇崩ス。白耳義公使格勞德其國ニ告歸セントシ辭見ス。其妻ヲ以テ皇后ニ内廷ニ謁ス。四月。是ヨリ先伊國駐劄特命全權公使河瀬真孝ヲ召還シ以テ議官ト爲ス。是ニ至テ陸軍中將西郷從道ヲ以テ之ニ代フ。既ニシテ參議兼文部卿タルヲ以テ任ニ赴クコトヲ果サス。是月。伊太里特命全權公使巴爾波左入見。國書ヲ捧ケ。國喪ヲ告ケ嗣君ヲ通シ。其新任ヲ奏ス。五月。參議大久保利通賊ノ害スル所トナル。各國公使書ヲ外務卿ニ致シテ之ヲ吊ス。六月。駐清特命全權公使森有禮ヲ召還シテ外務大輔ト爲ス。是月。法國水師提督海軍少將儒布哥等入見ス。白露公使以耳莫爾復タ至ル。七月。入見國書ヲ上リ。辦理公使ト

ト爲ス。是ニ至テ陸軍中將西郷從道ヲ以テ之ニ代フ。既ニシテ參議兼文部卿タルヲ以テ任ニ赴クコトヲ果サス。是月。伊太里特命全權公使巴爾波左入見。國書ヲ捧ケ。國喪ヲ告ケ嗣君ヲ通シ。其新任ヲ奏ス。五月。參議大久保利通賊ノ害スル所トナル。各國公使書ヲ外務卿ニ致シテ之ヲ吊ス。六月。駐清特命全權公使森有禮ヲ召還シテ外務大輔ト爲ス。是月。法國水師提督海軍少將儒布哥等入見ス。白露公使以耳莫爾復タ至ル。七月。入見國書ヲ上リ。辦理公使ト

大政綱要



遣外使臣ノ訓令ヲ制定ス

為リ本邦清布哇ヲ兼攝スルヲ奏シ。既ニシテ  
 清國ニ往ク。是月。三品敬仁親王薨ス。各國公使  
 弔詞ヲ上ル。八月。英國艦隊長水師提督賈耶爾  
 至ル。公使巴克斯導テ入見ス。十月。遣外使臣ノ  
 訓令ヲ制定ス。職制ト曰ヒ。任狀ト曰ヒ。到報ト  
 曰ヒ。交際例規ト曰ヒ。休假ト曰ヒ。臨時代理ト  
 曰ヒ。本國報知ト曰ヒ。使臣兼令ト曰ヒ。事務制  
 限ト曰ヒ。形勢視察ト曰ヒ。雜報ト曰ヒ。書記官  
 通報ト曰ヒ。領事監視ト曰ヒ。旅券保民ト曰ヒ。  
 屬官進退ト曰ヒ。信東往復ト曰ヒ。文書交割ト

曰フ。凡テ十八款。尋テ又領事訓令ヲ定ム。是ニ  
 於テ遣外使臣ノ法規略具レリ。是月。米國公使  
 賓漢將ニ其國ニ告歸セントス。適上北巡中ナ  
 ルヲ以テ其妻ヲ以テ皇后ニ見エ。英國公使巴  
 克斯ノ妻モ亦歸ラントス。亦皇后ニ見エ。露國  
 駐劄公使板本武揚還ル。十一月。車駕北巡ヨリ  
 還ル。英國公使巴克斯列國公使ニ代テ入朝シ  
 回鑾ヲ賀ス。是時ニ方テ朝鮮新ニ稅關ヲ豆毛  
 鎮ニ設ケ。諸貨ヲ權シ。苛稅ヲ徵シ。稟報ヲ煩ク  
 シ。以テ貿易ヲ阻抑シ。其民ヲシテ自ラ我ト踈

西國皇后及太皇太后並崩ス  
列國公使公私禮問法ヲ先ム  
清國山西河南飢ニ救贖ヲ募

遠ナラシメントス。事聞ス十一月。後夕花房義質ヲ釜山ニ遣テ之ヲ責メ。速ニ其關ヲ撤シ收税ヲ得メシム。十二月。停税ノ報ヲ得。釜山ノ市易復夕舊ニ復ス。義質乃チ違約償害ノ書ヲ投シテ還ル。是ヨリ先六月。西班牙皇后美爾入第斯崩ス。去月其太皇太后伯耳孟モ亦崩ス。並ニ聖書ヲ致シテ之ヲ吊フ。獨逸東洋艦隊長海軍大佐巴斯珠ニ内謁ヲ聽ス。其艦隊指揮官ノ職ニ在ルヲ以テナリ。見歲列國公使公私禮問法ヲ定メ。參議及ヒ院省使長官ニ領ツ。

テ賑卹ス

花房義質ヲ朝解ニ遣リ違約償害ノ條件ヲ要求ス

十二年一月。去歲清國山西河南二省大ニ饑ユ。本邦ノ紳士隣誼ヲ念ヒ。廣ク義贖ヲ募リテ之ヲ賑恤ス。是ニ至テ總理衙門大臣恭親王奕訢等書ヲ我代理公使鄭永寧ニ致シテ之ヲ謝ス。二月。法國公使約弗羅亞告歸ヲ以テ書記官馬魯哇ト俱ニ内謁ス。其後事ヲ代攝スルヲ以テナリ。三月。特命全權公使宍戸璣ヲ清國ニ遣リ森有禮ニ代フ。又大藏權少書記官竹添進一郎ヲ遣テ風土人情ヲ視察セシム。是月。又花房義質ヲ朝鮮ニ遣リ前議ヲ繼カシム。義質京城ニ入テ

直ニ違約償害ノ議ヲ起シ。七條件ヲ要求ス。一ハ邦債ヲ其國ニ通行ス。一ハ韓人邦船ヲ僦賃シテ貨物ヲ運漕ス。一ハ韓人ヲ放テ本邦ニ至ラシム。一ハ内地ヲ游旅シ學術ヲ研究ス。一ハ燈臺浮標ヲ造作スル等ナリ。朝鮮遂ニ其四件ヲ聽シ。又明年五月ヲ期シテ元山津ヲ開クヲ定ム。但仁川港ハ議未ク諧フニ至ラス。是月。參議大隈重信ヲ條約修正係ト爲シ。公使榎本武揚、吉田清成、上野景範、青木周藏モ亦此命アリ。四月。泰西ノ俗。結婚後二十五年ヲ銀婚日ト爲

菊花大綬章ヲ  
獨逸帝ニ贈ル  
米國條約修正  
詔成ル

レ。五十年ヲ金婚日ト爲レ。又六十年ヲ金剛石婚日ト爲レ。之ヲ禮典ニ加ヘテ大ニ祝賀セリ。是月。澳地利帝后ノ銀婚日ニ當ルヲ以テ。電信ヲ以テ祝詞ヲ通シ。二等書記官本間清雄ヲレテ之ヲ致サシム。六月。獨逸帝ノ金婚日ニ當ルヲ以テ。駐劄公使青木周藏ヲシテ祝詞ヲ致シ。因テ菊花大綬章及ヒ土儀ヲ遺ラシム。帝維廉時ニ年八十三ナリ。是月。米利堅條約修正ノ議成ル。初メ徳川氏ノ五國條約ヲ結フヤ。當時有司皆海外萬國ノ情ニ暗ク。條約ノ何物タルヲ



曉ラス。一ニ米國總領事巴爾黎ニ聽テ底案ヲ  
建テ。成規ヲ仰キ。後夕之ヲ整正セス。巴爾黎モ  
亦開港ニ臨テ草定セシ所ナルヲ以テ。十年ノ  
後重修改正センコトヲ條款中ニ載セリ。故ヲ  
以テ通商海關等ノ諸條ニ至テハ。之ヲ英清條  
約ノ戰敗威逼ノ餘ニ成ル所ノ者ニ對比スル  
モ。清ハ猶ホ餘裕アルヲ覺フ。蓋シ清ハ外國通  
商ノ久シキ能ク其情理ヲ曉リ。我ハ鎖國ノ餘  
毫モ其方法ヲ知ラサルニ由ル。況ヤ徳川氏ノ  
衰フル。朝野ノ物議ニ迫リ。列國ニ懇求シテ兵

庫新瀉開港ノ期ヲ延緩レ。爲ニ稅額ヲ減スル  
ニ至リ。國害ヲ後日ニ貽ル幾何ナルヲ知ラス。  
蓋シ慶應二年ヨリ明治五年ニ迄テ重修ノ期  
既ニ滿テリ。是ニ於テ外務卿副島種臣。大輔寺  
島宗則。大藏省出仕上野景範ニ條約改正審査  
ヲ命ス。然トモ時方ニ内外多故ニシテ未之ニ  
及フニ違アラス。全權大使ヲ海外ニ派遣スル  
ニ及テ又其期ヲ紆クシ。遷延遂ニ九年一月ニ  
至リ。先ツ海關ノ稅權ヲ回復セントシ。英法獨  
米四國公使ニ致書シテ修正ヲ其本國ニ求メ。

前年二月又我駐劄列國公使ニ訓令レ之ヲ商  
 議セシム。吉田清成先ツ米國ニ開議セシニ。大  
 統領ノ交替ニ際シ。十年六月始テ草案ヲ造リ。  
 追加ノ名ヲ以テ遂ニ安政訂約ノ開稅規ヲ廢  
 棄ス。是ニ至テ其批准條約ヲ交換シ。而シテ約  
 スルニ各國協定ノ日ヨリ之ヲ實施スルヲ以  
 テス。清成海外ヨリ復命ス。是月。法國大統領馬  
 克封職ヲ辭ス。國人俱禮以ヲ推シテ大統領ト  
 爲ス。五月。駐劄法國公使鮫島尚信ヲシテ璽書  
 ヲ捧ケテ之ヲ賀セシム。是月。外務大輔前特命

法國人俱禮以  
 大統領ト為ル

全權公使森有禮清國ヨリ還ル。米國公使賓漢  
 其國ヨリ歸復シ入見ス。條約ノ修正ヲ議スル  
 ヤ伊太里モ亦約案ヲ草定ス。唯々獨逸瑞西ノ  
 如キハ確答アラス。六月。公使鮫島尚信ヲシテ  
 巴勤ヨリ瑞西ニ往テ之ヲ議セシム。是ヨリ先。  
 獨逸。伊太里皇族米利堅前大統領來賓ノ報ア  
 リ。舊例外賓接待ハ外務ノ掌ル所ナリシニ。皇  
 族ノ如キハ兩國君主ノ結權ニ係ルヲ以テ。政  
 府ノ交際ト自ラ差異アリ。是ニ於テ華族從二  
 位峰須賀茂船伊達宗城。正四位鍋島直大ヲ三

獨逸皇孫未賓  
ス

獨逸黑鷲勳章  
ヲ聖上ニ上ル

國接伴係ト爲シ。宮内權大書記官建野郷三外  
 務權少書記官古澤經範ヲ之ニ貳フ。特命全權  
 公使吉田清成外務權大書記官石橋政方ヲ前  
 大統領接伴係ト爲シ。是月宗城清成郷三ヲ長  
 崎ニ遣リ之ヲ迎接セシム。獨逸皇孫海利希前  
 月廿八日ヲ以テ先テ横濱ニ至リ翌日入京朝  
 見ノ儀アリ。辦理公使愛善第希海軍大佐馬先  
 禮安等十四人之ニ扈隨ス。黑鷲勳章ヲ致シ璽  
 書ヲ上ル。是日皇后モ出テ見ル。款待觀兵等一  
 ニ恒儀ノ如シ。皇孫ノ京ニ駐ル。出入必ス儀仗

香港知事濱  
左塞主ル

米岡前大統領  
格蘭主ル

共一小隊ヲ付ス。留ルエト十餘日。横濱ニ還リ  
 離宮ニ館ス。是月香港知事濱左塞モ亦其妻ヲ  
 以テ至ル。十日。夫妻入見ス。外務卿井上馨ニ命  
 シテ俱ニ京攝南都ニ游覽セシム。適大藏大書  
 記官得能良介正倉院ノ勅封ヲ開クニ會シ。其  
 古書畫寶器ヲ展覧スルヲ得タリ。既ニシテ函  
 館ニ赴ク。七月。米岡前大統領格蘭長崎ヨリ横  
 濱ニ至ル。初メ格蘭神戸大阪歷覽ノ約アリ。會  
 タ痧病ノ神戸地方ニ行ハル、ヲ聞キ。徑ニ横  
 濱ニ來ル。即日入京。延邊館ニ館ス。亦其妻ヲ以



テ入見ス。在京凡テ六十日。其間日光ニ登覽シ。函根ニ游觀シ。吉田清成伊達宗城等更々之ニ伴フ。其函根ニ在ヤ。宮内大輔杉孫七郎ヲ遣リ就テ存問セシム。荷蘭兼瑞典那威辦理公使威嚴至ル。入見圖書ヲ上リ。新任ヲ奏ス。幾モナク其妻モ亦皇后ニ謁ス。是月。公使上野景範命アリ英國ヨリ還ル。八月。青木周藏モ亦獨逸ヨリ歸朝ス。獨逸公使愛善第希入見。圖書ヲ上リ。魚章ノ贈遺ヲ謝ス。瀨庄塞長崎ヨリ香港ニ還ル。九月。格蘭モ亦還ル。禮待大略列國ノ皇族ニ准

菊花大綬章ヲ  
西國帝ニ贈ル  
露國帝勲章ヲ  
聖上ニ上ル

ス。惟遇ハ蓋シ加フルコトアリ。其東京ニ留ルヤ。凡ソ舊俗古儀ニ係ル者ハ必ス觀覽ヲ求ム。但舊諸侯驕從儀ノ如キハ終ニ供具スルコトヲ得スト云フ。是ヨリ先。西班牙帝澳地利ト婚ス。凡ソ列國吉凶アレハ。專使ヲ派シ其禮ニ參會シ。魚章ヲ相贈リ。惟意ヲ表スルヲ其俗ト爲ス。是月。公使鞍島尚信ヲシテ巴勒ヨリ馬德里ニ往キ。西國帝ニ見ヘテ重書ヲ致シ。菊花大綬章ヲ贈ラシム。尚信又瑞西ニ赴キ。圖書ヲ大統領ニ捧ク。露國特命全權公使蘇耳衛又至ル。入

見國書ヲ上リ。高等聖徒ノ勳章ヲ獻シ。我菊花  
 大綬章ニ報ス。締約國帝王ノ勳章ヲ上ルハ露  
 國ヲ始ト爲ス。是日。澳國公使布耳斯ブルスモ亦入見。  
 國書ヲ上リ辦理公使タルヲ奏ス。英國公使巴  
 克斯クスモ亦偕ニ入朝ス。蘇耳衛ノ妻皇后ニ内廷  
 ニ謁ス。時ニ瑞典ノ地學士諾爾典ノルディン等北洋ヲ航  
 測セントシテ沿途橫濱ニ至ル。亦召見セラレ。  
 十月。西班牙代理公使阿爾拔アルカレ列全權公使ニ陞  
 リ。將ニ告歸セントシ。代理公使土里及羅トリグリスヲ以  
 テ入見ス。巴克斯モ亦告歸シ。書記官加丘ケネチ代ヲ

外賓接待式ヲ  
警査ス

留テ後事ヲ攝セシム。是ヨリ先。式部寮ニ命シ  
 テ外賓接待式ヲ警査セシム。是ニ至テ外務卿  
 井上馨ヲ委員長ト爲シ。宮内卿徳大寺實則ヲ  
 次長ト爲シ。海軍大佐林清康。陸軍中佐兒島益  
 謙。宮内權大書記官建野郷三。陸軍少佐田島應  
 親ヲ委員ト爲ス。十一月。外務大輔森有禮ヲ特  
 命全權公使ト爲シ。英吉利ニ遣ル。特命全權公  
 使上野景範ヲ外務少輔ト爲ス。幾モナク有禮  
 任ニ赴ク。是月。伊太利皇族熱那ネッパ侯復々函館ヨ  
 リ至ル。初壬申ノ年始テ来嶺シ。是年大地ノ周

伊國皇族再ヒ  
来嶺ス

游ヲ志シテ又東洋ニ航到ス。是ヨリ先。八月。長  
 崎ニ入ル。艦内痧病ノ患者アルニ會シ。急ニ浦  
 潮港ヨリ函館ニ回航ス。是ニ至テ議官河瀬真  
 孝外務推大書記官櫻田親義ヲ接伴員ト爲シ。  
 横濱ニ迎接シ東京ニ入ル。其再謁ナルヲ以テ  
 直チニ内廷ニ延見ス。皇后モ亦出テ見ル。勳章  
 ヲ上ル。儀典舊例ノ如シ。十二月。白耳義辦理公  
 使格羅的入見。圖書ヲ上リ特命全權公使タル  
 ヲ奏ス。

伊國帝大勳章  
 ヲ聖上ニ上ル

十三年一月。熱那侯入朝辭見シ。皇后ニ内廷ニ見

獨逸皇孫大阪  
 ニ射獵ス

エ。外務卿井上馨大輔上野景範等ニ土儀ヲ贈  
 リ接待ノ厚ヲ謝ス。京攝ヲ周覽セント請フ。鍋  
 島直大ヲレテ之ニ随伴セシム。是ヨリ先。獨逸  
 皇孫海利希既ニ東京ヲ辭シ。或ハ日光ニ游ヒ  
 或ハ函館ニ赴キ。或ハ京攝ニ歴觀ス。蜂須賀茂  
 韶京攝ニ随伴ス。二月。公使森有禮英國帝ニ見  
 エ。圖書ヲ捧ク。是月。海利希大阪ニ在テ吹田村  
 ニ射獵ス。村ニ池沼アリ。釋迦池ト謂フ。水鳥ノ  
 群集スル所ナリ。村民鳥ヲ捕テ生業ト爲ス。官  
 爲ニ銃射ヲ禁ス。是ニ至テ村民出テ之ヲ止ム。



語言通セス。從者以テ無禮ト爲シ。毆傷血ヲ見ルニ至ル。巡查來テ之ヲ阻攔ス。是ヨリ事頗ル紛糾ニ至リ。獨逸公使書ヲ外務卿ニ致シテ之ヲ詰ル。是時ニ當テ朝廷方ニ條約修正ニ會シ。外交ヲ慎重シ務メテ惟ヲ列國ニ納ル。是ニ於テカ急ニ外務大書記官宮本小一ヲ遣テ之ヲ審査ス。外人モ亦跡ノ毆傷ニ涉ルヲ匿シ。飾言捏証ス。爲ニ村民ヲ呵責シ。巡查ヲ解職シ。府知事渡邊昇モ亦待罪書ヲ呈シ。總ニ事ナキヲ得タリ。獨逸熱那侯ノ東京ヲ辭スルヤ。金三百圓

栴ヶ各國駐劄公使ヲ派遣ス

ヲ府下ノ灾民ニ卹ム。是月濱五塞モ亦金五百圓ヲ寄恤ス。格蘭及ヒ公使賓漢ハ衛生費三百六十圓ヲ贈ル。去歲疫病ノ被灾アルヲ以テナリ。三月。露國帝即位二十五年期ニ當ルヲ以テ上爲ニ大禮服ヲ御シ。露國ノ勲章ヲ佩ヒ。公使蘇耳衛ヲ召見シ。祝詞ヲ賜フ。列國ノ式ヲ用テ惟好ヲ篤クスルナリ。是ヨリ先。獨逸駐劄公使青木周藏ヲシテ澳地利和蘭ヲ兼攝シ。法朗西駐劄公使鮫島尚信ヲシテ白耳義ヲ兼攝セシム。是ニ至テ從三位鍋島直大ヲ特命全權公使

ト爲シ。西郷從道ニ代テ伊太里ニ遣リ。元老院  
幹事柳原前光。從四位長岡護美。陸軍少將井田  
讓ヲ特命全權公使ト爲シ。前光ヲ以テ榎本武  
揚ニ代テ露西亞ニ遣リ。瑞典那威ヲ兼テ讓ヲ  
以テ周藏ニ代テ澳地利ニ遣リ。護美ヲ以テ尚  
信ニ代テ荷蘭ニ遣リ。白耳義丁林ヲ兼攝シ。而  
シテ尚信ヲシテ法朗西ヨリ西班牙葡萄牙ヲ  
兼攝セシメ。幾モナク又瑞西ヲ加フ。是時ニ方  
テ我公使ノ海外ニ在ル者凡テ八人。其駐劄ス  
ル所ヲ法朗西。獨逸。露西亞。澳地利。伊太里。和蘭

英吉利。米利堅及ヒ清國ト爲シ。而シテ兼攝ス  
ル所ハ瑞典。那威。白耳義丁林。西班牙。葡萄牙。瑞  
西ノ六國ナリ。其公使ヲ置サル者ハ僻遠ノ白  
露ト叢爾タル布哇トノミナリ。亦列國ヲ親眺  
スル所以ナリ。西葡丁瑞ノ四周ニ公使ヲ置ク  
ハ此ヲ始トス。然トモ未タ幾ナラスレテ皆之  
ヲ罷ム。是月。新ニ書記生十一人ヲ列國ニ派遣  
シ。書記見習ヲ罷メ。書記生凡テ二十三人ニ至  
ル。長崎ニ外賓接待所ヲ設ク。四月初メ太政官  
権少書記官末松謙澄ヲ英國ニ遣ルヤ。書記生

ノ名ヲ肩ラレ。別ニ密囑スル所アリ。是ニ至テ  
 陽ニ職名ヲ除キ。廣ク新聞社員ニ交ラレム。以  
 テ我情況ヲ論撰シ。輿論ヲ感興シ。外交政略ノ  
 補益ヲ圖ラントス。是月。外務卿井上馨米國公  
 使順漢ト兩國漂民救済費償還方ヲ訂約ス。初  
 メ安政中。大學頭林耀ノ提督彼理ト條約ヲ神  
 奈川ニ締フヤ。約中漂民ノ條ヲ載スト雖モ。交  
 互費用ヲ償ハサルヲ法トス。爾後爭議ヲ起ス  
 ヌトサナカラス。立約齟齬ヲ免レス。是ニ至テ  
 條款ヲ更正シ。事類ヲ別テ兩官兩民ニ課シ。衣

米國ト漂民救  
 済費償還方ヲ  
 訂約ス

菊花大綬章ヲ  
 澳伊蘭白四國  
 帝及露獨ニ周  
 太子ニ賜ル土  
 儀ヲ米國大統  
 領ニ致ス

食醫藥路費若クハ埋葬諸費ハ兩政府之ヲ支  
 出シ。船舶貸取ノ保存諸費ハ之ヲ各主ニ課シ。  
 派遣官吏警察諸費ハ兩政府ノ負フ所ト爲ス。  
 五月。菊花大綬章ヲ澳地利。伊太里。荷蘭。白耳義  
 帝及ヒ露西亞。獨逸。兩太子ニ贈リ。諸公使ヲレ  
 テ之ヲ捧ケレム。時ニ勲章ヲ列國君臣ニ贈遺  
 レ以テ交誼ヲ篤クスト雖モ。米利堅ノ若キハ。  
 其法ヲ立ル。在官者ハ一ニ他國ヨリ勲章切牌  
 ヲ受クルヲ准サス。是ニ於テ精好ノ土宜若干  
 ヲ大統領ニ贈リテ好音ヲ通セシム。其價大約



米國通好ヲ朝  
鮮ニ求ム

一千五百圓ト爲ス。是月、公使吉田清成再ヒ米  
利堅ニ抵リ。大統領ニ見エテ此土宜ヲ致ス。初  
メ米利堅モ亦好ヲ朝鮮ニ通セント欲シ。將ニ  
海軍提督蘇葉的シユエルトヲ遣ラントシ。紹介ヲ我ニ求  
ム。朝鮮曩ニ條約ヲ締フト雖モ其開港互市ハ  
唯々戰ヲ畏ルルニ由ル。締約ハ其素懐ニ非ラ  
ス。而レテ洋人ヲ嫌フオト殊ニ甚シク。其未タ  
諭ス可カラサルヲ以テ之ヲ辭ス。是月提督蘇  
葉的ユルト徑チニ釜山港ニ入り。領事近藤真鋤ニ就  
テ書ヲ東萊府使ニ致ス。府使其書ヲ却ケテ受

露國太后崩ス

巴西公使辭約  
ヲ請フ

ケス。蕪葉的空ク釜山ヲ退ク。是ニ於テ公使賔  
漢外務卿井上馨ニ請テ其書ヲ我牒書ノ封皮  
内ニ糊封シ。之ヲ禮曹ニ進致シ。紹介ヲ爲サン  
コトヲ求ム。馨其益ナキヲ知ルト雖。再ヒ辭謝  
スルコトヲ欲セス。爲ニ之ヲ朝鮮ニ致ス。朝鮮  
終ニ答ヘス。六月二日露國太后崩ス。電訃至ル。  
亦電信ヲ以テ吊詞ヲ通ス。獨逸辦理公使愛善アイゼン  
第希入見。國書ヲ上リ特命全權公使タルヲ奏  
ス。是ヨリ先。外務大輔上野景範ノ公使ト爲リ  
テ龍動ニ在ルヤ。巴西公使其國ノ爲メニ締約

朝鮮修信使至

ヲ請フ。時方ニ列國ト條約修正ヲ商議スルニ  
 會ス。乃チ書ヲ致シテ修正ノ後徐ク之ヲ議セ  
 ント謂フ。七月。巴西軍艦阿里威拉號始テ橫濱  
 ニ至ル。艦將ヲ諾倫巴ト謂フ。八月。瑞西人萬國  
 公法修正議會ヲ其伯爾五府ニ開ク。公使森有  
 禮ニ命シテ之ニ參セシム。英國印度殖民地ノ  
 鎮將多ト諾温ン。水師提督克得ト。米國水師提督格利  
 德等皆入見ス。格利德ハ安政中海軍大尉ヲ以  
 テ提督彼理ニ從テ神奈川ニ至リシ者ナリ。九  
 月。朝鮮修信使金宏集等至ル。國書ヲ齎ラサス。

然トモ特旨ヲ以テ召見ヲ聽ス。宏集土宜ヲ獻  
 ス。外務卿大少輔等ニモ亦各々贈遺アリ。宏集  
 ノ至ル。韓錢ノ我ニ通セサルヲ以テ資金九萬  
 七千圓ヲ協同商會ニ借シテ之ヲ求ム。商會ハ  
 我商民ノ牙行ヲ釜山港ニ開ク者ナリ。商會適  
 マ金貨澀滯スルヲ以テ之ヲ官ニ乞フ。朝旨方  
 ニ修好通商ニ切ナリ。乃チ五萬圓ヲ貸給ス。是  
 月。公使鍋島直大伊太里帝ニ謁シ。國書勲章ヲ  
 上ル。露國軍艦東止白利亞海ヲ測リ本邦ノ測  
 線ニ聯絡セントシ。沼海上所ヲ請フ。之ヲ允ス。

十月。獨逸公使愛善第希入見。皇太子維廣ノ親書ヲ上ル。公使長岡護美白耳義帝ニ謁シ。國書ヲ捧ケ公使タルヲ告ク。十一月。是ヨリ先朝延屢々使臣ヲ朝鮮ニ遣リ。開港事項ヲ商議セシムト雖モ。論旨齟齬。開港ノ期ヲ過ル既ニ三年。韓吏唯々遷延姑息ヲ事トシ。議未夕諧フニ至ラス。四月。代理公使花房義質ヲ辦理公使ト為シ。後夕之ヲ朝鮮ニ遣リ。前議ヲ決セシメントス。未夕發スルニ及ハスレテ金宏集等至ルニ會シ。又果サス。是ニ至テ遂ニ周書訓條ヲ授

代理公使花房  
義質ヲ朝鮮ニ  
遣リ諸要ホ  
議決ス

ケテ之ヲ遣ル。大要仁川港ヲ定メ。公使館ヲ漢城ニ置キ。内地旅行。大丘行商。米粟輸出ノ禁ヲ解ク等ノ諸項ナリ。精工ノ銃器ヲ贈リ。金剛艦ヲ以テ之ヲ護送シ。以テ恩威並示サントス。是月。白耳義公使格羅的入朝シ。其大綬章ヲ上リ。我菊花章ニ報ス。我公使柳原前光露國太子ニ見エ菊花大綬章ヲ捧ク。十二月。伊太里澳地利兩公使モ亦入見シ。謝書ヲ上ル。法朗西公使老基德至ル。時ニ條約ノ重修ニ屬シ。新使ノ至ルヲ望ム。乃チ急ニ延見ヲ賜フ。獨逸東洋艦隊長



公使鮫島尚信  
巴勤ニ致ス

大政紀要

智耳徳老モ亦其公使ニ随テ入見ス。是月我特命全權公使鮫島尚信病テ巴勤ニ致ス。摩巴那斯ニ葬ル。是歲白露國希羅刺氏ヲ推戴シテ共和國主ト爲ス。其智里ニ克ツヲ以テナリ。

十四年二月。是ヨリ先露國公使蕪耳衛荷蘭公使ヲ攝ス。是ニ至テ荷蘭國書至ル。蕪耳衛入見之ヲ捧ク。海軍少將西達堅伯克モ随テ見ユ。伊國公使巴爾波左告歸ヲ以テ入見ス。其妻モ亦皇后ニ謁ス。是月澳地利太子沙爾白耳義ノ皇女ト婚ス。電詞ヲ以テ之ヲ祝シ。菊花大授章ヲ贈

布哇帝未賓ス

リ。臨時代理公使木間清雄ヲシテ之ヲ捧ケシム。獨逸皇孫維廉阿克斯堡侯ノ女ト婚ス。亦電祝ヲ致ス。三月布哇帝至ル。米國公使賓漢曩ニ其未賓ヲ以聞ス。乃チ二品嘉彰親王ヲ接待係ト爲シ。宮内少輔土方久元ヲシテ横濱ニ迎接セシム。即日入京。延邊館ニ館ス。上臨御シテ之ヲ勞シ。又勅任官ヲシテ存問セシム。外務卿井上馨接待費金二萬圓ヲ降付セシコトヲ稟請ス。擬シテ其十日間ノ淹留ナルヲ以テ一萬圓ヲ給ス。待遇蓋シ獨伊ノ兩皇族ヨリ差々加フ

大政紀要 編

丁林皇太后崩

露國帝宮ニ遣

本邦始テ吊此  
式ヲ行フ

ルコトアリト云フ。是月、丁林皇太后加羅林馬  
 利崩ス。海牙駐劄公使長岡護美ヲシテ吊詞ヲ  
 其外務卿ニ致サシム。是月十三日、露國帝亞歷  
 山得第二世虛無黨ノ爲ニ弑セララル。太子亞歷  
 山得第三世立ツ。翌日電訃至ル。先ツ電詞ヲ飛  
 シテ之ヲ吊シ。諸省卿及ヒ元老院副議長ニ命  
 レテ其駐劄公使ニ遣吊セシメ。諸軍艦團旗ヲ  
 半挽ニ掲ケ。今時吊砲二十一聲ヲ放ツ。本邦ノ  
 吊砲ハ此ニ起ル。初メ本邦同盟服喪ノ制アラ  
 ス。頃年以降、外交漸ク密ニシテ交互勲章贈答

清國皇太后崩

ノ式アリ。是ニ於テ列國ノ禮ニ倂ヒ。勅奏任官  
 ニ令レテ三週日其喪ニ服セシム。其制黒紗綴  
 ヲ大小禮服ノ左袖ニ結ヒ。又之ヲ用テ劍緞ヲ  
 纏ヒ。以テ表情ヲ表ス。我駐劄公使柳原前光ニ  
 大使ノ名ヲ假レテ。其葬儀及ヒ即位戴冠ノ式  
 ニ會セシム。既ニシテ是年戴冠式ヲ行フヲ果  
 サス。布哇帝京ニ駐ル凡テ十一日ニシテ還ル。  
 函禮アルニ會シ禮砲奏樂ノ儀ヲ辭セリ。四月。  
 清國慈禧皇太后殂ス。太后ハ文宗ノ皇后ニシ  
 テ穆宗ノ所生母ナリ。公使何如璋以聞ス。乃チ

外  
政  
紀  
要

宮内卿徳大寺實則ニ命シテ吊詞ヲ傳宣シ。三  
日間軍艦半旗ノ禮ヲ行ハシム。是月露國公使  
蕪耳衛入見シ。重書吊詞ヲ其國ニ賜フコトヲ  
謝ス。五月。澳地利帝大十字架ノ勲章ヲ聖上ニ  
致シ。其公使布番ホッペンハルス法士ヨシテ國書勲章ヲ捧ケ  
シム。露國公使又入見。勲章ノ贈遺ヲ謝ス。法朗  
西公使先基ソット徳其海軍少將圖伯ゲュベリ禮ヲ導テ内廷  
ニ見ユ。六月。露國海軍中將兼東洋海陸軍總督  
勒索斯基ソックスキ又至ル。其妻ヲ以テ兩聖ニ内廷ニ見  
ユ。為ニ觀兵式ヲ行ヒ。熾仁親王ヲシテ之ヲ引

澳  
洲  
大  
十  
字  
架  
ノ  
勲  
章  
ヲ  
聖  
上  
ニ  
上  
ル

荷  
蘭  
帝  
大  
勲  
章  
ヲ  
聖  
上  
ニ  
上  
ル

導セシム。七月。荷蘭辦理公使芳得ファンデルボット布徳至リ。入  
朝ニ國書ヲ上リ。瑞典那威兼任公使タルヲ奏  
シ。是ヨリ先。荷蘭帝其大勲章グロートクリウスヲ聖上ニ上ル。是  
日并テ之ヲ捧ケ。獨逸艦隊長法俄爾フスニゲールモ亦至テ  
入見ス。公使愛善第希モ亦引導シテ入朝ス。皇  
后特ニ公使ヲ内廷ニ延見ス。是日。英國海軍中  
將維列ウイリスモ亦入見ス。公使モ偕ニス。是ヨリ先。較  
島尚信ノ巴勒ニ没セシヨリ書記官ヲ臨時代  
理公使ト爲シ。未タ後任ヲ置カス。然トモ法國  
ハ列國中勢力雄飛。且ツ方今條約修正ノ際ニ

大  
政  
紀  
要



國民ノ朝鮮蔚  
陵島ニ至ルヲ  
申禁ス

會スルヲ以テ。是月。澳國駐劄公使井田讓ヲ法  
國ニ徙シ。澳國事宜ハ書記官ヲシテ代理セシ  
メ。後又讓ヲシテ瑞西西班牙。葡萄牙三國ヲ兼  
攝セシム。八月。國民朝鮮蔚陵島ニ往テ竹木ヲ  
斬代シ釜山元山等ノ港津ニ輸入スト傳フル  
者アリ。禮曹判書沈舜澤書ヲ我外務卿井上馨  
ニ致シ之ヲ禁セント請フ。蔚陵島ハ即チ我カ  
所謂竹島ナリ。一ニ松島ト謂フ。寛永中既ニ之  
ヲ海外ニ棄ツ。是ニ於テ外務大輔上野景範其  
書ニ復シ。之ヲ審スルニ其實アリ。乃チ頒令シ

米國大統領  
ス亞撒ヲ推テ  
大統領ト為ス

旭日大綬章ヲ  
布帛帛ニ授ク

國民ノ其地ニ至ルヲ申禁ス。九月。米利堅大統  
領儀カールヒルト比爾德殞ス。是ヨリ先。七月中。其國人ノ為  
ニ狙撃セラレテ重傷ヲ負フ。是ニ至テ遂ニ起  
タス。國人副統領亞撒ヲ推シテ大統領ト為ス。  
初メ其變報ノ至ルヤ。屢々電信ヲ飛ハシテ安  
否ヲ存問ス。是ニ至テ吊詞ヲ電致シ。陸軍省ニ  
令シ海軍禮砲條例ニ照シテ吊砲ヲ舉行セシ  
ム。是ヨリ陸海軍吊砲ノ式具ハル。是月。旭日大  
綬章ヲ露國海軍大將布帛廷ニ賜フ。布帛廷ハ  
嘉永癸丑初テ長崎ニ来リ條約ヲ締ヒシ者ナ

英國西皇孫本  
賓ス

リ。故ニ此命アリ。明年書ヲ柳原前光ニ贈リテ  
 恩命ヲ謝シ。因テ往昔艱厄崎嶇ノ際本國ニ生  
 還スルヲ得ルハ我邦ノ恩力ニ頼ルコトヲ陳  
 セリ。十月。英吉利ノ皇孫維多利亞<sup>ヴィクトリア</sup>若爾日<sup>ジョージ</sup>兩親王  
 至ル。其来賓ノ報アルヤ。嘉彰親王ニ接伴ヲ命  
 ス。其留學中親故アルヲ以テナリ。初メ外賓ノ接  
 待ニ定則ナク。外務宮内ノ兩者毎ニ之ニ關ス。  
 列國ノ例。事王室ニ係ル者ハ之ヲ宮内省ニ。國  
 事ニ係ル者ハ之ヲ外務省ニ委スルヲ法トス。  
 嚮ニ外賓接伴規ヲ定メ。一ニ列國ノ例ニ依ル。

是ニ至テ接待事務ヲ宮内省ニ委ス。其京ニ在  
 ルヤ。上親レク延邊館ニ臨問ス。自餘ノ典禮一  
 ニ伊獨ニ皇族ニ同シ。在京僅ニ六月。横濱ニ還  
 ル。上又親レク其軍艦ニ臨御ス。大臣參議之ニ  
 扈從ス。接待常侍委員服部潛藏等ヲレテ神戸  
 港ニ送ラレム。ニ皇孫京阪南都ヲ巡覽レテ去  
 レリ。是ヨリ先。外國軍艦ノ開港場ニ至ル。艦隊  
 指揮長官ノ其船ニ在ルヤ。時トレテ縣令ト禮  
 問ノ前後ヲ争フ者アリ。是ニ至テ其禮問法ヲ  
 定ム。其法官級ヲ比較シ。官卑キ者ヨリ先ニ禮

列國軍艦隊長  
禮問法ヲ定ム

問ヲ行ヒ。官等レケレハ。来ル者先ニ居ル者  
 之ニ酬フ。俱ニ二十四時間ヲ以テス。是月荷瀬  
 駐劄公使長岡護美ヲ召還シ。書記官櫻田親義  
 ヲ留メテ後事ヲ理メシム。初メ其公使ヲ置ク  
 ヤ素ト一年ヲ期シ以テ交誼ヲ篤クス。其交際  
 ニ緊要ナラサルヲ以テ後夕後任ヲ置カス。井  
 田謙維納ヨリ巴勒ニ抵リ。大統領ニ見エ任單  
 ヲ捧ク。十一月。朝鮮修信使趙秉鎬至ル。從事李  
 祖淵等十一人從フ。入見圖書ヲ上リ。花房義實  
 使聘ニ報ス。初メ理事官宮本小一ヲ遣リテ

朝鮮修信使復  
 夕至ル

趙寅熙ト通商章程ヲ商議セシムルヤ議合ハ  
 ス。去歲又花房義實ヲ遣テ金宏集ト議セシム  
 ルニ。猶ホ未夕之ヲ定ムルニ至ラズ。事情大略  
 我安政年間ノ景況ニ同シ。是ニ違テ外務卿井  
 上馨兼鎬ヲ省廳ニ配キテ商議ヲ起ス。兼鎬先  
 ツ章程稅則ノ改正案ヲ示ス。我章程稅則ヲ起  
 草スルヤ。貿易旺盛ノ日ニ及フマテ一ニ關稅  
 ヲ蠲キ。稍盛ナルニ及テ始テ五分稅ヲ課シ。釐  
 テ之ヲ輕減シ。以テ他日商況ヲ興起セント欲  
 ス。而ルニ其擬稿ノ如キハ。章程ヲ苛細ニシ。稅



則ヲ昂貴セントス。替大ニ之ヲ痛駁辨論シ。其  
 鈴印ノ權アリヤト問フニ。國書ノ外一ノ信憑  
 ヲ帶ヒス。初ヨリ條約商議ノ法ハ何物タルヲ  
 辨セス。然トモ其遠航ヲ曠クレ徒ニ之ヲ卻ク  
 ルニ忍ヒス。又花房義質官本小一ヲレテ反覆  
 討論セシム。遂ニ我カ起案ノ意ヲ解セス。終始  
 執一變通ノ論ナク。論議終ニ結ハスレテ退ク。  
 是月。又花房義質ヲ朝鮮京城ニ遣リ。警部一員  
 廻査十人ヲ以テ之ニ附ス。是時ニ方テ。朝鮮國  
 中黨派ヲ分チ。守舊開新ノ二黨アリ。論議合ハ

花房義質ヲ朝  
 鮮京城ニ置ク

菊花大綬章ヲ  
 瑞典帝ニ贈ル

ス。内自ラ相閲ク。是歲大ニ官吏ヲ本邦ニ派遣  
 レ。文物制度ヲ觀ル。其最モ貴顯ナル者ヲ參判  
 朴正陽。趙峻。參議洪永植。姜文馨。魚允中。嚴世昌  
 等ト爲ス。初ノ館舎ヲ與フト雖モ後各々市街  
 ニ散處ス。初メ韓人ノ海外事情ニ暗ク。固陋墨  
 守スルヲ以テ。我東洋新報。萬國公報等ノ漢字  
 新聞ヲ朝鮮ニ遞送シ。以テ其愚蒙ヲ破リ智識  
 ヲ提擻セントス。朝廷ノ朝鮮ニ於ケル此ノ如  
 キニ至ル。是ニ至テ識者或ハ悟ル所アルカ如  
 シ。十一月。是ヨリ先。菊花大綬章ヲ瑞典帝寓斯

俄爾第二世ニ贈リ。又之ヲ其太子ニ致ス。是月  
 公使柳原前光ストツホホルニ入リ。帝ニ見エテ重書  
 ヲ致シ。勲章ヲ捧ケ。又太子ノ新婚ヲ賀ス。時ニ  
 太子巴丁バウテン太公ノ女ヲ娶レリ。幾モナク帝自ラ  
 菊花章ヲ佩ヒ。前光ヲ饗筵ニ延キ。北極第一等  
 大綬章ヲ授ク。是月。外務卿ノ官舎成ル。列國ノ  
 制外交官ノ居邸ヲ設クルヤ。必ス者署ニ聯接  
 レ。以テ公事ヲ執ルニ便シ。又以テ外賓接對ノ  
 所ト爲ス。其結構輪奐壯麗。敬禮ヲ示ス所以ナ  
 リ。是ニ至テ亦其制ヲ取ル。梅造賣大略五萬圓。

大政紀要  
 卷之...  
 第...

裝飾ハ蓋シ興カラスト云フ。十二月。露園皇弟  
 波爾ボール成年誓詞ノ式禮アリ。波爾時ニ年二十有  
 一。亦泰西ノ俗ナリ。臨時代理公使山内勝明列  
 國公使ニ隨テ其禮ニ參ス。是歲。我國船ノ漂難  
 ニ罹ル者甚タ多シ。一ヲ永祥ト曰フ。太平洋中  
 ニ於テ米國北京號ノ援ヲ所トナリ。一ヲ榮得  
 ト曰ヒ。亦太平洋中ニ於テ米國貌列門トモ號ノ援  
 フ所トナリ。一ヲ雲龍ト曰ヒ。紀伊海ニ於テ英  
 國滿刺加號ノ援ヲ所トナリ。一ハ漁舟。伊豆海  
 中ニ於テ獨逸加爾カール號ノ援ヲ所ト爲ル。初メ辛

大政紀要  
 編

未年間。神戶ノ商船太平洋ニ漂ヒ。米國支那號ニ救ハレ桑港ニ送ラル。適大使ノ至ルニ會シ。船長ニ物ヲ賜フテ其勞ヲ慰ス。爾後同船ノ外船ニ援ケラル、者特ニ再三ノミナラス。獨ニ米利堅ト漂難救援ノ條約ヲ訂定スト雖モ。人口ノ多寡。道途ノ遠通。救卹ノ勞否ニ隨テ。賞物モ亦差異アリ。亦交際ノ誼ナリ。

英國公使巴克  
斯後ヲ至ル

十五年。一月。英國公使巴克斯後ヲ至ル。代理公使加<sup>ハネ</sup><sup>ネ</sup><sup>ト</sup>代將ニ告歸セレントシ内廷ニ見エ。久ク輦下ニ駐ルヲ以テ其妻モ亦内謁ヲ聽ス。舊例外

清國公使黎庶  
昌至リ何如璋  
ニ代ル

入ノ謁見ハ午後一二時ヲ恒トス。是日故アリテ午前ヲ用フ。英國皇太子我公使森有禮ヲ延見シ。兩皇孫待遇ノ優渥ナルヲ謝ス。是日。國事ニ非サルヲ以テ燕服ヲ用エ。清國欽差大臣黎庶昌至ル。副使ナシ。列國ノ法。公使以下ハ一ニ書記官ヲ以テ之ヲ遇ス。是ニ至テ清國モ亦外法ニ從フ。二月。庶昌入朝。圖書ヲ上リ。駐劄公使タルヲ奏ス。前公使何如璋張斯桂モ亦入テ辭見ス。巴克斯内廷ニ入見ス。露國公使賴耳衛ハ米利堅ニ轉任スルヲ以テ入見シ。其妻モ亦皇



大正紀要

全權公使ノ官  
等ヲ分テニ書

后ニ辭見ス。是月。我公使井田讓巴勒ヨリ馬德里ニ入り。西班牙帝ニ見エ圖書ヲ捧ケ。公使タルヲ告ケ。尋テ皇后ニ謁ス。長岡護美モ亦白耳義帝ニ辭見シ。圖書ヲ捧ク。三月。巴克斯又入見シ。英國帝ノ影像ヲ獻ス。是ヨリ先。兩皇孫ノ至ル。之ヲ獻セントス及ハス。故ニ公使ニ附レテ之ヲ致セリ。是日。巴克斯ノ女二人モ亦皇后ニ見エ。公使鍋島直大ヲ召還シ。議官淺野長勲ヲ特命全權公使ト爲シ。直大ニ代テ伊太里ニ遣ル。是ヨリ先。癸酉十一月。全權公使ノ官等ヲ分

ト爲ス

テ二等ト爲シ。一等ハ二等官ニ。二等ハ三等官ニ當ツ。幾モナク之ヲ廢セシニ。是ニ至テ又之ヲ分チ。各々其級ニ准ス。長勲ヲ二等ニ列セリ。四月。法國公使老基德其職ヲ解キ。將ニ其國ニ還ラントス。内廷ニ辭見ス。荷蘭兼瑞典公使芳得布德入見。圖書ヲ捧ケ。瑞典ノ天使勲章ヲ上リテ我菊花大綬章ニ報ス。公使ノ妻モ亦兩聖ニ見エ。是月。英國軍艦飛魚號ニ九國南東綠海及ヒ津輕海峽ノ測量ヲ聽シ。又麥克巴號ニ房總綠海ヨリ大吠碕マテノ測量ヲ聽シ。並ニ柴

大政紀要

水需用ヲ給ス。五月。葡萄牙特命全權公使格<sup>ラ</sup>拉  
 撒<sup>ラ</sup>至リ。入見。圖書ヲ上リ。駐劄公使タルヲ奏ス。  
 露國公使蕪耳衛ノ歸ル。圖書未夕達セス。是ニ  
 至テ代理公使羅善<sup>ル</sup>入見シ。圖書ヲ上ル。五月。朝  
 鮮公使領事館ノ費額ヲ定ム。東洋ノ俗タル。交  
 際ノ間往々私贈アリ。一ニ官費ヲ以テ之ヲ支  
 辨ス。是ニ於テ宴會費ハ公使ニ一千圓。總領事  
 ニ五百圓ヲ給シ。代理ハ則チ各々其半ヲ給シ。  
 而シテ天長節ハ公使ニ一百圓。領事ニ五十圓  
 ヲ給ス。竝ニ廳費ヲ用テ之ニ充ツ。六月六日。瑞

大政紀要

五大臣職仁親  
 王ヲ露國ニ遣  
 リ戴冠式ニ參  
 セシム

皇帝銀婚日ニ當ルヲ以テ。電信ヲ以テ祝辭ヲ  
 致ス。是ヨリ先。露西亞帝屋無黨ニ虞ル所アリ  
 テ其即位戴冠ノ禮期ヲ新クシ。將ニ是年八九  
 月ヲ期シテ之ヲ行ハントス。公使柳原前光以  
 聞ス。是ニ於テ左大臣ニ品職仁親王ニ璽書ヲ  
 授テ之ヲ莫斯科ニ遣リ。大禮ニ參セシム。開國  
 以還。親王ヲ以テ大使ト為スハ此ヲ始ト為ス。  
 蓋シ殊典ナリ。因テ前光ノ特命全權大使ヲ解  
 ク。朝鮮經筵侍讀金玉均。兼政院記註官徐光範  
 等至ル。亦我カ又物開成ノ政治ヲ觀テ以テ矜

大政紀要

菊花大綬章ヲ  
以斯馬克ニ授  
ク

朝鮮京城ノ兵  
我公使館ヲ襲  
フ

式スル所アラント欲ス。是月菊花大綬章ヲ獨  
逸ノ元老以斯馬克ニ授ク。大綬章ヲ人臣ニ授  
クルハ亦特典ト爲ス。法國特命全權公使達里  
格至ル。入見國書ヲ上リ。老基德ニ代テ駐劄公  
使タルヲ奏ス。伊國代理公使查理斯内廷ニ入  
見シ。全權公使巴爾波尼ノ解職牒書ヲ奏ス。露  
國太平洋海艦隊長海軍少將阿斯蘭白哥橫濱ニ  
至ル。亦内廷ニ入見ス。公使羅善之ヲ引導ス。是  
月朝鮮京城ノ兵亂ヲ起シ。我カ公使館ヲ襲フ。  
花房義質等圍ヲ衝テ僅ニ身ヲ以テ脱シ。濟物

大正新要

浦ニ走り長崎ニ還ル。○事ハ先暴七月元老院

議長寺島宗則ヲ一等特命全權公使ト爲シ。外

務大輔上野景範ヲ二等特命全權公使ト爲シ。

宗則ヲ米利堅ニ景範ヲ澳地利ニ遣リ。特命全

權公使吉田清成ヲ外務大輔ト爲ス。葡萄牙特

命全權公使格拉撒其國ニ還ルヲ以テ内廷ニ

入見ス。八月海軍中將榎本武揚ヲ兼特命全權

公使ト爲シ清國ニ遣リ。兵戸璣ニ代フ。是月澳

地利辦理公使布番法士獨逸全權公使愛善第

希皆告歸ヲ以テ内廷ニ入見ス。獨逸書記官這

大政已矣



花房義實ヲ朝  
鮮ニ遣還シテ

德<sup>トウイキヤク</sup>維智西國ノ後事ヲ代辦スルヲ以テ亦入見  
 ス。法朗西書記官突<sup>トウイキヤク</sup>庄公<sup>トウイキヤク</sup>徳モ内謁ヲ聽ス。其條  
 約改正議ニ參シテ勞アルニ由ル。我公使淺野  
 長勲羅馬ニ抵リ。伊國帝ニ見エ國書ヲ捧ケ。駐  
 劄公使タルヲ報ス。朝鮮ノ變報アルヤ。外務卿  
 井上馨ニ命シテ海路馬關ニ抵リ。直キニ花房  
 義實ヲ遣還シテ其罪ヲ請メレム。總領事込藤  
 真鋤ヲ之ニ副シ。兵艦ニ隻ヲ以テ之ヲ護送ス。  
 而シテ陸軍少將高島鞆之助等ヲレテ其兵ヲ  
 率开レム。八月。義實朝鮮全權大臣李裕元。金宏

罪ヲ伺ヒ修好  
條規追加ニ則  
ヲ訂ス

集ニ濟物浦ニ會シ。修好條規追加ニ則ヲ訂約  
 ス。一ハ三港遊歩規程ヲ廣メテ方韓法五十里  
 ト為レ。二年ノ後方百里ト為レ。又今ヨリ後一  
 年ヲ期シテ揚花鎮ヲ開市場ト為ス。一ハ使臣  
 及ヒ隨員眷屬ノ國內遊旅ヲ聽ス等ノ項ナリ。  
 朝鮮皆之ヲ期ル。○餘ハ光暴是ニ於テ朝鮮ノ  
 修好全ク我素志ノ如クナルヲ得タリ。九月。菊  
 花大綬章ヲ法朗西大統領ニ贈ル。是ヨリ先。戊  
 寅ノ歲。塞爾維<sup>セルビア</sup>國泰西列邦ノ盟約ヲ得テ獨立  
 國ヲ建ツ。塞爾維ハ舊ト澳地利ニ屬隸ス。是ニ

朝鮮朴泳存等  
ヲ遣來リ罪ヲ  
謝シ追加條約  
ヲ交換ス

至テ我巴勒駐劄公使井田謙ニ就テ國書ヲ致  
シテ之ヲ報告ス。璽書之ニ復ス。是月英國飛魚  
號艦長布斯京ニ金千圓ヲ賜フ。其花房義實ヲ  
赦フノ功ニ酬エルナリ。十月朝鮮朴泳存等  
植等ヲ遣リ來ル。公使館ヲ襲フノ罪ヲ謝レ。且  
ツ追加條約ヲ交換セントス。井上馨馬關ヨリ  
泳存等ヲ率テ東京ニ還ル。芝青松寺ニ館ス。  
幾モナク批准書ヲ井上馨ニ降シテ泳存等ト  
交換ヲ為ス。朝鮮ノ物情未タ穩妥ナラサルヲ  
以テ軍艦ニ隻ヲ遣テ常ニ仁川元山ニ港ノ開

菊花大綬章ヲ  
薩古斯侯ニ致  
ス

特命全權公使  
杉孫七郎ヲ布

ニ交互繫泊セシム。十一月。璽書ヲ獨逸聯邦薩  
古斯侯ニ致シ。菊花大綬章ヲ贈ル。侯ハ聯邦中  
名望最モ高キヲ以テナリ。是月廿二日獨逸皇  
太子在哥拉查理ノ銀婚日ニ當ルヲ以テ璽書  
ヲ贈リ。公使青木周藏ヲシテ祝詞ヲ捧ケレム。  
十二月。特命全權公使柳原前光ヲ露國ヨリ召  
還シ。幾モナク外務大書記官竹添進一郎ヲ辨  
理公使ト為レ之ヲ朝鮮ニ遣リ。外務三等出仕  
花房義實ヲ特命全權公使ト為シ。前光ニ代ヘ  
テ之ヲ露西亞ニ遣ル。又宮内大輔杉孫七郎ヲ

哇ニ遣り戴冠  
式ニ参セシム

明年一月ヲ期  
シ仁川港ヲ開  
ク

大正紀要

特命全權公使ト為シ。國書ヲ授ケテ布哇ニ遣  
ル。明年二月其戴冠即位ノ式ニ参同セシメシ  
カ為メナリ。是月令レテ朝鮮仁川港ヲ開クヲ  
以テ。明年一月一日ヨリ國民ノ通航ヲ聽ス。修  
好條約ヲ訂スルヤ。九年二月ヨリ二十四月ヲ  
限テ三港ノ開埠ヲ期ス。是ニ至ルマテ六十餘  
月ヲ遷延セリ。事平クヲ以テ外務省馬關出張  
所ヲ撤ス。朴泳孝等モ亦東京ヲ辭シテ。郵船那  
古屋號ニ搭載シテ橫濱ヨリ其國ニ歸ル。初メ  
熾仁親王ノ露周ニ赴クヤ。工部大書記官林董

陸軍少佐山本清堅等之ニ隨フ。此行ヤ公使淺  
野長勳モ亦偕ニス。香港新嘉坡錫蘭亞丁ノ諸  
港ヲ經。諸港皆禮砲二十一發ノ式アリ。蘇士峽  
ニ抵ル。適英兵歷山府ノ攻撃ニ際シ。運河ヲ鎖  
ス。筈モナク伊國那不見ヲ經テ未蘭ニ入ル。伊  
國帝其勳章ヲ親王ニ贈ル。日耳曼瑞西ヲ過テ。  
九月遂ニ露周ニ入ル。露周又戴冠式ヲ行フヲ  
果サス。居ルコト月餘。彼得堡ヨリ莫斯科ヲ經  
テ。維納ニ抵リ。又海牙ニ遊ヒ。還テ伯靈ニ入リ  
又巴勒ヲ歷テ馬德里ニ入リ。龍動ニ遊ヒ。遂ニ

大正紀要



薩古斯威馬爾  
木公白鷹勳章  
ヲ聖上ニ上ル

紐育ニ至ル。實ニ是月十五日ナリ。薩古斯威馬  
爾木公是月ヲ以テ白鷹勳章ヲ上ル。是ニ至ル  
マテ泰西列國ノ勳章ヲ我聖上ニ捧クル者凡  
テ九國。序滿生。露西亞。伊太里。白耳義。澳地利。荷  
蘭。瑞典及ヒ獨逸聯邦中薩古斯各堡額達。威馬  
爾ノ二侯國此ナリ。